

● 授業科目の
内容紹介

教
養
教
育
科
目

授業科目名	単位数		学科	年次	担当教員
	必修	選択			
ライフデザイン総合セミナー	[2]		日英 保音	1・2	全教員

I 主題

建学の精神に謳われている理想の人間像を目指して、教養を高めて文化を尊ぶ人間教育の実践を目的とする(学生生活ハンドブック「建学の精神」の項参照)。本学に学ぶ全ての学生にとって、将来のライフデザインを構築するための基礎的な必修科目である。

II 授業の到達目標

- 社会性を養うために必要な社会的技能・教養を伸ばし、広げることが出来る。
- 自己表現により、自分の考えを的確に判断し、コミュニケーション力を高めることが出来る。
- 社会人として必要な身だしなみや様々な知識を得ることが出来る。

III 授業の概要

高校までで身に付けた基礎学力を補完しつつ、これを積極的に活用することを通して、人間力と呼ぶに足る、将来のライフデザインの土台となる能力の獲得へと結びつけていく。

具体的には、二年間にわたる隔週の授業と二回の宿泊研修とで構成される。

IV 授業計画と内容

項目	内 容
(1年次)	
1. フレッシュマンキャンプ	4月7日(日)～4月9日(火)二泊三日
2. 基礎力活用講座 (特別講演会)	相互理解(4～5月) ノートをとろう(5～6月) 伝えるための要約(6月) 責任を持った主張(7～10月) グループワークショップ(10～11月)
3. 研修センターゼミ (2年次)	3月に実施 一泊二日
4. 特別講演会	外部講師による講演(5月)
5. 社会人準備講座	外部講師による実践的講習(10～12月)

V 使用テキスト・教材等

適宜プリント等を配布する。

VI 参考書・参考資料

授業時に指示する。

VII 成績評価の方法及び基準

成績評価方法 学習項目	試験	小テスト・ レポート	成果発表・ 作品	出席状況・ 授業態度	その他 ()
配点比率(%) 合計 100		20		80	
フレッシュマンキャンプ		○		○	
基礎力活用講座		○		○	
研修センターゼミ		○		○	
特別講演会		○		○	
社会人準備講座		○		○	

VIII 授業時間外の学習(予習・復習等)

その都度、指示する。

IX その他(履修上の注意、前提条件等)

※合否判定は、上記「VII 成績評価の方法及び基準」に示した1～5の項目のそれぞれにおいてを行い、全てに合格することにより、単位を認定することとする。

授業科目名	単位数		学科	年次	担当教員
	必修	選択			
哲学と人生		2	日英 保音	2	巻口勇一郎

I 主題

東西の哲学・思想を知り、自分自身、生と死について知る

II 授業の到達目標

1. 西洋古代の哲学を知る
2. キリスト教思想、東洋思想を知る
3. 自分を知る

III 授業の概要

古代の哲学を中心に近代、現代とのつながりを考察する

IV 授業計画と内容

項目	内 容
1. 哲学とは	死生学、トランスペーソナル心理学
2. グノーシス主義	異端の思想、流出・帰還
3. 芸術鑑賞	映像や音楽等の視聴覚教材
4. 古代ギリシャ	自然学者とソフィストたち
5. 古代ギリシャ	ソクラテス
6. 古代ギリシャ	プラトン
7. 古代ギリシャ	アリストテレス
8. ギリシャ神話	英雄について
9. 芸術鑑賞	ギリシャ神話について
10. 旧約聖書	創世記等、アブラハム
11. 新約聖書	キリストの思想
12. 映画鑑賞	キリストの生涯についての映画鑑賞
13. インド、チベットの仏教について	釈迦、死者の書、ヨガ
14. フロイト、ユング	精神分析、集合的無意識
15. まとめ	まとめ

V 使用テキスト・教材等

「まんがで学ぶ 哲学入門」三井 貴之、古川 日向 宝島社

VI 参考書・参考資料**VII 成績評価方法及び配点比率**

成績評価方法	試験	小テスト・レポート	成果発表・作品	出席状況・授業態度	その他()
学習項目					
配点比率(%) 合計 100	90			10	
西洋哲学についての理解	○				
東洋哲学についての理解	○				
自分の人生について考える				○	

VIII 授業時間外の学習(予習・復習等)

毎回の復習は欠かせない。

IX その他(参考文献、履修上の注意等)

地域の方をお招きし体験的授業を行うことがある。受講者の状況に応じて進度・評価方法を変更することがある。理由のない欠席は認められない。

授業科目名	単位数		学科	年次	担当教員
	必修	選択			
哲学と人生		2	日英	2	松井重樹

I 主題

哲学を学び、自分の問題をよりよく考えていくことである。

II 授業の到達目標

1. 哲学の動機、性格などを学び、哲学の基本的なことが理解できる。
2. 主な哲学者の考え方を学び、自ら考える時の参考とすることができる。
3. レポート作成を通して、自分の問題のよりよい解決を見い出していきたい。

III 授業の概要

色々な哲学者の考え方を紹介し、各人が考える時の参考になるようにしたい。

IV 授業計画と内容

項目	内 容
1. 哲学の言葉の意味	古代ギリシャ語で、「知を愛する」
2. 哲学の動機	驚き、疑い、批判、危機意識、悲哀など。項目3～7で詳しくとりあげる。
3. 驚き	ソクラテス、プラトンの哲学
4. 疑い	デカルトの哲学
5. 批判	カントの哲学
6. 危機意識	ハイデガー、ヤスバースの哲学
7. 悲哀	西田幾多郎の哲学
8. 哲学の性格	主体性、全体性、根源性、論理性など
9. 日常生活での問題と哲学	日常、私たちが生活する中で出くわす問題と哲学的に考えることについて ※10～15の項目は、時に受講生とコミュニケーションをとりながら、ある程度自由に考えていきたいと思う。 その時に、色々な哲学者の考え方をわかりやすく紹介したい。
10. 身体	
11. 営為・仕事	
12. 天災・人災	
13. 欲	
14. 人間関係	
15. 生と死	

V 使用テキスト・教材等

必要に応じてプリントを配布する。

VI 参考書・参考資料

参考書：酒井、宇都宮『イラストでわかるやさしい哲学』成美堂出版

VII 成績評価の方法及び基準

学習項目	成績評価方法	試験	小テスト・レポート	成果発表・作品	出席状況・授業態度	その他()
配点比率(%) 合計 100		70		30		
哲学の基本的なことの理解		○		○		
主な哲学者の考え方の理解		○		○		
レポートの内容		○		○		

VIII 授業時間外の学習（予習・復習等）

配布されたプリントを事前によく読んでおくこと。

IX その他（履修上の注意、前提条件等）

授業科目名	単位数		学科	年次	担当教員
	必修	選択			
文学と人間		2	日英 保音	1	安藤勝志

I 主題

文学と周辺芸術における人間の生き方について学ぶ。

II 授業の到達目標

- 1.作品の社会的背景について理解できるようになる。
- 2.作家の思想について理解できるようになる。
- 3.作中の登場人物の生き方について学ぶことができる。

III 授業の概要

それぞれの作家の代表的作品の特色と人間観について講義する。

IV 授業計画と内容

項目	内 容
1. 山本周五郎の作品①	『赤ひげ診療譚』の人間像①
2. 山本周五郎の作品②	『赤ひげ診療譚』の人間像②
3. 山本周五郎の作品③	『赤ひげ診療譚』の人間像③
4. 手塚治虫の作品	『陽だまりの樹』の人間像
5. 時代背景とモデル	江戸時代の華岡青洲と緒方洪庵
6. 村上もとかの作品①	『J I N一仁一』の人間像①
7. 村上もとかの作品②	『J I N一仁一』の人間像②
8. 村上もとかの作品③	『J I N一仁一』の人間像③
9. 山崎豊子の作品①	『白い巨塔』の人間像①
10. 山崎豊子の作品②	『白い巨塔』の人間像②
11. 山崎豊子の作品③	『白い巨塔』の人間像③
12. 山田貴敏の作品①	『Dr. コトー診療所』の人間像①
13. 山田貴敏の作品②	『Dr. コトー診療所』の人間像②
14. 乃木坂太郎の作品①	『医龍』の人間像①
15. 乃木坂太郎の作品②	『医龍』の人間像②

V 使用テキスト・教材等

使用せず。

VI 参考書・参考資料

その都度指示する。

VII 成績評価の方法及び基準

成績評価方法	試験	小テスト・レポート	成果発表・作品	出席状況・授業態度	その他()
学習項目 配点比率(%) 合計 100		50	30	20	
作品の社会的背景の理解		○	○	○	
作品のテーマと人間観の理解		○	○	○	

VIII 授業時間外の学習（予習・復習等）

授業中に取り上げる作品以外の作品も読むこと。

IX その他（履修上の注意、前提条件等）

社会的マナーに反する行為は禁止する。

授業科目名	単位数		学科	年次	担当教員
	必修	選択			
行動と心理		2	日英 保音	1	大村 壮

I 主題

この授業では心理学の理論や現象を通して、その考え方について学ぶ。

II 授業の到達目標

1. 心理学とはどのような学問なのかを知る。
2. 人間を巡る理論や現象について理解を深める。
3. 各論について理解を深め、受講前とは違う考え方ができるようになる。

III 授業の概要

心理学の理論を通してモノの見方について学ぶ。理論とは、私たちが何か出来事や現象を見るときのメガネのようなモノである。違うメガネをかけば見える世界が一変するように、いろんな理論を学ぶことで世界に対する見方も変わる。そこでこの授業では複数の観点からその事例を見ることを学ぶ。

IV 授業計画と内容

項目	内 容
1. ガイダンスと心理学のイメージ	心理学は何の学問なのか
2. 心とは何か	心はどこにあるのか
3. 生理：脳	分離脳から脳について考える
4. 知覚：アフォーダンス	知覚の仕方は一様ではない
5. 認知①：記憶過程	知覚したモノがどう記憶されるのか
6. 認知②：記憶の変容	記憶はそのままなのか変わらぬのか
7. 認知③：意思決定	人はどのように買い物をしているのか
8. 社会①：ステレオタイプ	認知を歪めるバイアス
9. 社会②：社会的認知	人はどう判断しているのか
10. 社会③：社会的ジレンマ	「情けは人のためならず」の意味
11. 発達①：幼児期～児童期	自我はどのように発達するのか
12. 発達②：青年期～成人期	アイデンティティの形成
13. 発達③：老年期	歳をとることの意味
14. 教育①：学習する	学習するとは
15. 教育②：動機づけ	人はなぜ勉強するのか

V 使用テキスト・教材等

テキストは使用しない。

VI 参考書・参考資料

適宜、授業中に指示する。

VII 成績評価の方法及び基準

成績評価方法 学習項目	試験	小テスト・ レポート	成果発表・ 作品	出席状況・ 授業態度	その他 ()
配点比率(%) 合計 100	80	10		10	
心理学の知識の習得	○	○		○	
人間行動に対する新たな考え方の習得	○	○		○	

VIII 授業時間外の学習（予習・復習等）

人間について常に疑問を持つように日ごろから行動してほしい。授業内容を授業を受講していない人に話してほしい。

IX その他（履修上の注意、前提条件等）

私語、他の受講生への迷惑行為は厳禁。憶えるだけでなく、考えるように取り組んでほしい。

授業科目名	単位数		学科	年次	担当教員
	必修	選択			
行動と心理		2	日英 保音	1	金子泰之

I 主題

心理学の基礎的知識を獲得する

II 授業の到達目標

1. 心理学とはどのような学問なのかを実習を通して理解する。
2. 心の仕組みを通してヒトを理解する。
3. 心理学の見方を用いて自分なりに問題を考えられるようになる。

III 授業の概要

実習を通して心理学の基礎的知識を深める。

IV 授業計画と内容

項目	内 容
1. 心理学とは	心理学を概観する
2. 知覚（1）	錯視に関する実習
3. 知覚（2）	知覚のメカニズム
4. 記憶（1）	記憶の構造（実習）
5. 記憶（2）	記憶の構造（解説）
6. 記憶（3）	自己と記憶
7. 認知	物語化する心の働き
8. 学習	学習による変容
9. 対人認知	偏見にもとづく他者認知
10. パーソナリティ	性格検査から個人差をとらえる
11. 発達障害	発達障害を持つ子の特徴を理解する
12. 集団の中でおきるいじめ	集団が個人に与える影響力
13. 凶悪化する犯罪	青少年は凶悪化しているのか？
14. 非行少年への処遇	厳罰化は非行を抑止するのか？
15. カウンセリング	他者の話を聞いてみる

V 使用テキスト・教材等

授業中に資料を配布する。

VI 参考書・参考資料

必要に応じて授業中に参考書を案内する。

VII 成績評価の方法及び基準

成績評価方法	試験	小テスト・レポート	成果発表・作品	出席状況・授業態度	その他()
学習項目					
配点比率(%) 合計 100	30	10	30	30	
心理学の基礎知識への理解	○	○			
心のしくみの理解	○	○			
問題の見方の理解			○	○	

VIII 授業時間外の学習（予習・復習等）

授業中に配布した資料を読み返し、復習しておくこと

IX その他（履修上の注意、前提条件等）

実習には意欲的に参加すること。意見を求められたら積極的に発言すること。

授業科目名	単位数		学科	年次	担当教員
	必修	選択			
芸術と人間		2	日英 保音	2	小倉 隆

I 主題

この授業では、視覚芸術を中心に見つめ考察する。芸術とはこれまでどのような内容を指して来たのか「見る」ことを考察しながら芸術と生き方を学ぶ。

II 授業の到達目標

1. 芸術の概要を理解できるようになる。
2. 美学の基礎を学び芸術について考察できるようになる。
3. 授業で学んだ内容を、生活に活かすことができるようになる。

III 授業の概要

主として講義を通して造形表現の基礎的・基本的な知識・技能を習得する。

IV 授業計画と内容

項目	内 容
1. オリエンテーション	授業の内容説明
2. 美について	美と美的体験について考察する
3. 自然美について	自然美について考察する
4. みることについて	目とカメラの眼について考察する
5. 実物と写真	实物と写真について考察する
6. 描画の考察と写真	描画について考察する
7. 絵画鑑賞の方法	絵画鑑賞の方法を考察する
8. 絵画鑑賞	美術館で絵画作品を鑑賞する
9. 作品鑑賞	美術館で立体作品を鑑賞する
10. 作品鑑賞と美術館	作品鑑賞と美術館について考察する
11. 鑑賞をまとめる	作品鑑賞をまとめる
12. 作品と画集	作品と画集について考察する
13. 美術史(印象派)	印象派の時代を学ぶ
14. 美術史(芸術家と作品)	芸術家と作品について考察する
15. 授業のまとめ	授業のまとめ

V 使用テキスト・教材等

テキスト:「美学入門」中井正一 中公文庫

VI 参考書・参考資料

必要な資料は配布する。

VII 成績評価の方法及び基準

以下の配点比率は欠席時数が授業回数の1/3を超えない者に限る

成績評価方法 学習項目	試験	小テスト・レポート	成果発表・作品	出席状況・授業態度	その他()
配点比率(%) 合計 100		50		50	
芸術の概要を理解する		○		○	
美学・芸術の基礎を考察する		○		○	
美術・芸術作品に関心を深める		○		○	

VIII 授業時間外の学習(予習・復習等)

レポートの提出に備え、各授業の内容をまとめておく。

IX その他(履修上の注意、前提条件等)

静岡県立美術館にて、1日校外授業を行う。

授業科目名	単位数		学科	年次	担当教員
	必修	選択			
芸術と人間		2	日英音	2	前田昌利

I 主題

芸術(音楽)というものが我々人間の生活にもたらす恩恵について考える。

II 授業の到達目標

1. 音楽が我々の生活にどのような力を与えてくれるのかを認識する。
2. 西洋音楽の歴史を学び、文化的な人間力をつける。
3. 幅広い曲を聴くことで、豊かな感受性を身につける。

III 授業の概要

パワーポイントやDVDなどを駆使し、視覚と聴覚で芸術の幅広い見識を養う。

IV 授業計画と内容

項目	内 容
1. 西洋クラシックとバロック音楽	西洋クラシック音楽の生い立ち。
2. 古典派の音楽家たち	モーツアルト、ハイドン
3. ドイツロマン派の音楽家たち1	ベートーヴェン、シューマン、シューベルト、
4. ロマン派の音楽家たち2	Brahms, Liszt, Chopin
5. フランスの音楽家たち	ベルリオーズ、サンサーンス、フォーレ
6. 近、現代の音楽家たち	チャイコフスキイ、プロコフィエフ
7. 楽器の種類について	弦楽器、管楽器、などの違いや奏法を学ぶ。
8. 楽器の歴史について	様々な種類の楽器群から主な楽器の歴史を探る。
9. 室内楽1	弦楽器で編成される室内楽を学ぶ。
10. 室内楽2	管楽器で編成される室内楽を学ぶ。
11. 室内楽3	ピアノを含んで編成される室内楽を学ぶ。
12. オーケストラ	オーケストラについて学び、演奏を聴く。
13. 協奏曲	ピアノ協奏曲、ヴァイオリン協奏曲等を勉強する。
14. バレエ	バレエの映像を鑑賞し、その魅力を勉強する。
15. オペラ	オペラの歴史や仕組み、その魅力を勉強する。

V 使用テキスト・教材等

その都度テキストや、CD、DVDを使用する。

VI 参考書・参考資料

岡田暁生著「CD・DVDで語る西洋音楽史」

VII 成績評価の方法及び基準

成績評価方法	試験	小テスト・レポート	成果発表・作品	出席状況・授業態度	その他()
学習項目					
配点比率(%) 合計 100		60		40	
芸術に対する認識・理解度		○		○	
芸術及び音楽全般へ関わる姿勢		○			

VIII 授業時間外の学習(予習・復習等)

前回の授業内容を復習し、その都度整理しておくこと。

IX その他(履修上の注意、前提条件等)

原則として1/3の欠席は履修を拒否する。

授業科目名	単位数		学科	年次	担当教員
	必修	選択			
芸術と人間		2	日英音	2	難波麻美

I 主題

この授業では、人類が作り出した芸術の世界を堪能し、人間性への理解を深める。

II 授業の到達目標

1. 音楽の歴史を学び、理解し、豊かな感性を養う。
2. 知識を得ることにより、それ以上の創造性、客觀性、発展性を得る。
3. 毎回、季節のうたを紹介、実践してみる

III 授業の概要

さまざまな時代・形式の音楽を紹介する。

IV 授業計画と内容

項目	内 容
1. 総合芸術Ⅰバレエ	白鳥の湖の魅力を探る
2. 総合芸術Ⅱミュージカル	オペラ座の怪人の魅力
3. 総合芸術Ⅲオペラ	フィガロの結婚から楽劇までの歴史
4. オーケストラの音楽	宫廷音楽から歌劇場の音楽
5. 音楽の始まり～中世・ルネサンス時代	グレゴリオ聖歌
6. バロック時代から	ビバルディ、バッハ、ヘンデル
7. ウィーン古典派の音楽	ハイドン、モーツアルト、ベートーヴェン
8. ピアノの楽器と名曲について	チェンバロとピアノフォルテ
9. ロマン派の音楽 I	シューベルト、メンデルスゾーン
10. ロマン派の音楽 II	ショパン、シューマン、リスト
11. 表題音楽と絶対音楽	ワーグナー、ブルームス
12. 近代・現代の音楽	グリンカ、スマタナ、ドボルザーク
13. 歌舞伎・能・雅楽・人形浄瑠璃	無形文化遺産の役割
14. 日本音楽と楽器	伝統的な楽器の特徴
15. 世界で活躍する日本の音楽家	武満徹、團伊玖磨について

V 使用テキスト・教材等

第1回目の授業にて発表する。

VI 参考書・参考資料

その都度発表する。川井学監修「音楽の謎」、西村理監修「もう一度学びたいクラシック」

VII 成績評価の方法及び基準

成績評価方法	試験	小テスト・レポート	成果発表・作品	出席状況・授業態度	その他()
学習項目					
配点比率(%) 合計 100		70		30	
芸術に対する認識・理解度		○		○	
芸術及び音楽全般へ関わる姿勢		○			

VIII 授業時間外の学習（予習・復習等）

前回の授業内容を復習し、CD,DVDにて確認しておく。

IX その他（履修上の注意、前提条件等）

原則として1/3以上の欠席は不合格とする。

遅刻は認めない。

授業中、静粛を保てない場合、退室願う。

授業科目名	単位数		学科	年次	担当教員
	必修	選択			
歴史と人間		2	日英保音	1	高木敬雄

I 主題

この授業では、主に静岡の近現代史に関わる人物や出来事を取り上げ、その歴史的意味を考察する。

II 授業の到達目標

1. 静岡の歴史を学ぶことで地域に興味・関心を持つことができる。
2. 著名な人物だけでなく、地域で活躍する人々を掘り起こすことができる。
3. 自分の信念に基づき力強く生き抜いた人々から、現代に通じる思想を学ぶことができる。

III 授業の概要

各種資料を使い、それぞれの項目について多面的に理解できるようにする。

IV 授業計画と内容

項目	内 容
1. はじめに	歴史のなかの静岡、大河ドラマ、茶など
2. 龍馬、新選組、篤姫、八重の時代	幕末とはどんな時代だったのか
3. 幕末維新期と人々	名もない百姓たちの幕末維新とは
4. 静岡時代の慶喜	最後の将軍慶喜の静岡時代
5. 牧之原とお茶	士族と川越人足たちの開墾
6. 福沢諭吉と文明開化	「学問のすすめ」にみる諭吉の思想
7. 自由民権の群像	三浦環の父も参加した運動とは
8. 静岡の発明家たち	鈴木藤三郎、豊田佐吉、山葉寅楠など
9. 田中正造の生き方と思想	足尾鉱毒事件と正造の活動
10. 焼津と小泉八雲	八雲と焼津の関わり、彼の作品
11. 大正デモクラシーと民衆	普選や婦人運動…松本君平、与謝野晶子
12. 静岡茶の発達	清水開港、機械化、茶唄
13. 戦争と民衆	アジア・太平洋戦争と人々
14. 第五福竜丸事件	核兵器と原水爆禁止運動の高揚
15. 高度成長から現代へ	静岡茶の盛衰と現状

V 使用テキスト・教材等

自作プリント使用、DVD ほか視聴

VI 参考書・参考資料

各授業時に示す。

VII 成績評価の方法及び基準

成績評価方法 学習項目	試験	小テスト・レポート	成果発表・作品	出席状況・授業態度	その他()
配点比率(%) 合計 100	55	15	15	15	
歴史の歩みを理解する	○	○		○	
資料収集と人物の掘り起こし			○	○	
現代の課題を考える	○	○			

VIII 授業時間外の学習（予習・復習等）

授業中に示す課題についてレポートを作成する。

IX その他（履修上の注意、前提条件等）

履修上の注意：授業に関係ない私語はしないこと。

授業科目名	単位数		学科	年次	担当教員
	必修	選択			
社会と人間		2	日英 保音	2	田中美幸

I 主題

この授業では、現代社会の諸問題を多次元的に考察し、社会の一員としてどうあるべきか、問題解決のための基本的考え方を学ぶ。

II 授業の到達目標

- 各テーマを光と影という観点から理解し、物事を深く考えることができる。
- 現代社会の諸問題の時代背景を理解し、未来について考察できる。
- 体験を通して Plan do see. Positive. の意味を考え、自己実現を目指して応用できるようになる。

III 授業の概要

社会生活を営む人間が出会う様々なテーマについて、光と影という観点や過去から現在に至るまでの時代背景を理解し、自己実現に向けて未来を考察する。

IV 授業計画と内容

項目	内 容
1. はじめに	人間とロボットはどこが違うか。
2. 人類の誕生について	地球誕生から生命の誕生～人類誕生に至るまで
3. 人間の進化について	進化し続けてきた人間は今後も進化するだろうか。
4. 社会とは	社会はどのように発展してきたかを理解する。
5. 6. 新聞から現状を学ぶ	現代の社会事情を学ぶ。
7~10 社会問題・家族問題を考える	「Pay it forward.」「おくりびと」から学ぶ。
11・12. 文明と文化について	先人から何を学び、次世代に何を伝えるか。
13. 14. 個人発表	伝統文化・家族文化:みそ作り体験を手掛かりに
15. まとめ	教科書のテーマについて、自分の考えを発表する。
	今後の社会や自分の未来を発展的に創造する。

V 使用テキスト・教材等

『朝のホームルーム』 武仲保夫著 発売元:静岡新聞社

VI 参考書・参考資料

適宜配布

VII 成績評価の方法及び基準

成績評価方法 学習項目	試験	小テスト・レポート	成果発表・作品	出席状況・授業態度	その他()
配点比率(%) 合計 100	50	20	10	20	
様々な身近なテーマを深く理解	○			○	
現代社会が抱える諸問題を理解	○			○	
光と影、過去と現在から文明と文化について理解	○	○		○	
多次元的な考え方を理解	○		○	○	
問題解決の基本的な考え方を習得	○			○	

VIII 授業時間外の学習(予習・復習等)

教科書を事前に読んでおくこと。授業中に示す課題についてレポートを作成すること。
新聞記事やテレビのニュースに注目し、現代社会について理解すること。
日常のポジティブなできごとに気づき、発表に備えること。

IX その他(履修上の注意、前提条件等)

授業に関係ない私語は慎むこと。授業態度を重視する。

授業科目名	単位数		学科	年次	担当教員
	必修	選択			
職業と人生		2	日英 保音	1	進路支援委員長

I 主題

この授業は各種の職業についての理解を深め、各自の職業選択に役立てるることを主題とする。

II 授業の到達目標

- 各種業界の人の話を聞くことによって、進路選択の参考となる。
- 職業意識を明確にするとともに、自分の将来像を描くことができる。
- 社会人としての素養を身に付けることができる。

III 授業の概要

外部講師による講義形式。

IV 授業計画と内容

項目	内 容
1. オリエンテーション：働くって何？	・授業の主旨と内容説明、受講姿勢とマナー、働くことの意味。
2. 変化する雇用環境と多様な働き方	・進路選択の多様性、変化する雇用環境。
3. 女性の働き方と職業	・仕事とプライベート、職場環境。
4. 公務員、地方行政	・地方行政の仕組み、公務員の仕事と役割。
5. アパレル業界での働き方	・アパレル業界の仕事の種類、内容。
6. 小売業と販売職	・小売業、販売職の仕事の種類、内容。
7. 流通業界	・流通業界の仕事の種類、内容。
8～9. 「企業研究会」ガイダンスと参加	・企業研究会の概要説明と諸注意。 ・参加企業の担当者と直接に話す、企業の業種や仕事内容を知る。
10. 製造業界	・製造業界の仕事の種類、内容。
11. 金融業界	・金融業界の仕事の種類、内容。
12. ホテル業界（サービス業）	・ホテル業界（サービス業）の仕事の種類、内容、接客に必要なホスピタリティ。
13. 放送・新聞・メディア業界	・就職情報サイトの活用と新聞の読み方、放送・新聞・メディア業界の仕事の種類、内容。
14. 地元で働く	地元で働くということ。
15. 進路選択の仕方	進路選択の必要性、進路選択の方法。

V 使用テキスト・教材等

特になし。随時プリント資料を用意する。

VI 参考書・参考資料

特になし。

VII 成績評価の方法及び基準

成績評価方法	試験	小テスト・レポート	成果発表・作品	出席状況・授業態度	その他()
学習項目 配点比率(%) 合計 100		50		50	
職業意識の高揚		○		○	
進路選択の参考		○		○	
社会人としての素養の習得		○		○	
コミュニケーション能力の涵養		○		○	
マナー、接遇の習得		○		○	

VIII 授業時間外の学習（予習・復習等）

翌週の講義に関する業界について下調べをし、授業後はその内容をまとめておくこと。

IX その他（履修上の注意、前提条件等）

授業にはスーツ着用で出席すること。企業研究会の参加は必須（早退は認めない）。自分のライフデザインを考え、進路への关心と意識を常に持つこと。

授業科目名	単位数		学科	年次	担当教員
	必修	選択			
くらしと教育		2	日英 保育	2	小長井邦男

I 主題

この授業では、子ども及び教育を取り巻く問題・課題の現状と対策を学び、これからの社会で生き抜く人間的な資質を身につける。

II 授業の到達目標

1. 全ての教育が一人一人の社会的自立を支援するために行われていることを理解できる。
2. 学校だけが教育機関ではなく、多くの教育関係機関との連携が大切だと理解できる。
3. 子どもの健全な育成には、大人社会の見直し・建て直しが必要なことが理解でき、それに対して自分の考えがもてる。

III 授業の概要

配付する資料や映像資料で、教育的問題・課題を把握し、自分なりの考えを整理する。

IV 授業計画と内容

この授業は、これから社会で生き抜く人間的な資質を高める教養科目である。

項目	内 容
1. くらしの中の教育	いろいろな○○教育
2. 自立するということ	教育のねらい 自立を阻害する問題
3. 障害をもつ子どもへの教育①	特別支援教育の概要
4. 障害をもつ子どもへの教育②	発達障害への対応
5. 児童虐待への対応①	虐待としつけ
6. 児童虐待への対応②	児童虐待防止法
7. 児童虐待への対応③	身体的虐待とネグレクトの実態
8. 児童虐待への対応④	先進国（スウェーデン）の取り組み
9. いじめ問題への対応	いじめの定義 いじめの実態
10. 不登校問題への対応	不登校の定義 不登校の実態
11. 思春期と性に関する課題	思春期の特徴 性に関する問題行動
12. 不満の爆発「家出」「暴力行為」	家出の現状 暴力行為の現状
13. 家庭での生活指導	家庭、父親、母親の役割
14. あらためて教育問題を考える①	障害をもつ子どもの保護者
15. あらためて教育問題を考える②	思春期の子どもへの対応

V 使用テキスト・教材等

講義中に資料配付

VI 参考書・参考資料

文部科学省が作成した学習指導要領、文部科学白書、生徒指導提要など

VII 成績評価の方法及び基準

成績評価方法 学習項目	試験	小テスト・ レポート	成果発表・ 作品	出席状況・ 授業態度	その他 ()
配点比率(%) 合計 100	50	25		25	
教育の使命の理解	○	○		○	
子ども・教育の諸問題の理解	○	○		○	
諸問題に対する自分の考え方	○	○		○	

VIII 授業時間外の学習（予習・復習等）

日常の教育問題に関心をもつために図書館や新聞を活用する。

IX その他（履修上の注意、前提条件等）

毎回配付する資料等を保存し、試験に備えること。

授業科目名	単位数		学科	年次	担当教員
	必修	選択			
くらしとボランティア		1・2	日英 保音	1	鳥羽 茂

I 主題

この授業では、ボランティア活動とは何かを理解し、学生自らが主体的に活動に参加しようとする態度を養うことに主眼におく。

II 授業の到達目標

1. ボランティア活動とは何かを理解する。
2. 大規模災害について学び、大規模災害時のボランティア活動について考察する。
3. NPOや、NPOの果たす役割等について学び、くらしとボランティアについて考察を深める。

III 授業の概要

ボランティア・市民活動に関する資料・映像・文献等を用い、ボランティアへの理解を深める。

IV 授業計画と内容

項目	内 容
1.はじめに	講義の進め方のオリエンテーション
2.ボランティア活動とは何か	学生同士のディスカッション
3.ボランティア活動論（1）	ある青年のボランティア活動
4.ボランティア活動論（2）	ボランティア活動と人の生き方、暮らし方
5.災害時のボランティア活動（1）	災害とは何か、東日本大震災から学ぶ
6.災害時のボランティア活動（2）	災害時のボランティア活動を考える
7.HUG避難所運営ゲーム（1）	大規模災害と避難所生活を考える
8.HUG避難所運営ゲーム（2）	大規模災害と避難所生活を考える
9.活動体験事前指導	活動体験に向けた事前指導と情報提供
10.活動体験報告（1）	活動体験報告
11.活動体験報告（2）	活動体験報告と振り返り
12.NPO論（1）	NPOとは何か
13.NPO論（2）	NPOの役割、活動の広がりを理解する
14.社会参加を巡る諸問題	社会における人間関係について考える
15.おわりに～まとめ～	「くらしとボランティア」を考える

V 使用テキスト・教材等

必要に応じ資料配布をする。

VI 参考書・参考資料

参考までに、案内する テキスト「市民活動論」大阪ボランティア協会出版

VII 成績評価の方法及び基準

成績評価方法 学習項目	試験	小テスト・ レポート	活動体験・ 発表	出席状況・ 授業態度	その他
配点比率(%) 合計 100		20	50	30	
ボランティア活動への理解	-	○		○	
介護等体験・自主的な体験	-		○		
くらしとボランティアの応用	-	○	○	○	

VIII 授業時間外の学習（予習・復習等）

ボランティア・NPOに関する内容の新聞記事等を読もう。

IX その他（履修上の注意、前提条件等）

履修上の注意：夏期休暇中に「介護等体験」をはじめ「自主的な活動体験」を履修者全員が行う。活動後には「体験レポート」の提出（必須）。また毎回、講義やグループ発表を聞いた感想を小レポートで提出する。

授業科目名	単位数		学科	年次	担当教員
	必修	選択			
くらしと経済		2	日英 保音	2	山川正人

I 主題

社会人として必要な人生設計、家計管理、金融経済の基礎を実践的に学び、最終的には自身の人生設計の大枠を掴むことを目的とする。

II 授業の到達目標

- 社会人として必要な、人生設計、家計管理、金融経済の概要を知る。
- 人生計画の裏づけとなるマネープランの立て方の基礎を身につける。
- 20歳以降の、長期的な自分自身の人生計画を作成する。

III 授業の概要

教科書的な内容ではなく、実際の社会生活の中で起こっていることを題材に、聴く一方ではなく、考えたり、簡単なワークを行いながら講義を進めます。一般論ではなく、自分に当てはめて考え、受講生各自が卒業後の人生の指針を手にすることを目指します。

IV 授業計画と内容

項目	内 容
1. くらしとお金	DVD 学習、ライフデザイン=人生設計について。
2. 人生 80 年計画①	人生 80 年の計画表を作成。
3. お金を稼ぐ	働く意味、働き方、生涯収入と支出等。
4. お金を使う	さまざまな費用、社会保障、税金。
5. お金を借りる	契約、クレジットカード、キャッシング。
6. マネートラブル	悪質商法、マネートラブルの現実。
7. ライフプランゲーム	人生を仮想体験するライフプランゲーム
8. お金を貯める・増やす	金利計算の方法。さまざまな金融商品。
9. 人生 80 年計画②	20 代の人生計画。
10.マイホーム取得	物件選び、住宅ローン、返済。
11. 生命保険	20 代に生命保険は必要か？
12. 自動車保険	自動車保険、事故処理の実際。
13. マネーマネジメント	ライフイベント表、キャッシングフロー表、財産簿
14. 人生 80 年計画③	30 代以降の人生計画。
15. 人生 80 年計画④	私の人生ストーリーの作成。

V 使用テキスト・教材等

テキストは使用せず、その都度独自資料を使用する。

VI 参考書・参考資料

なし

VII 成績評価の方法及び基準

成績評価方法	試験	小テスト・レポート	成果発表・作品	出席状況・授業態度	その他()
学習項目					
配点比率(%) 合計 100		80		20	
各回ごとの出席レポートの理解度合い、質問等の積極的态度等		○		○	
課題レポートの具体性、学んだ知識の反映具合等		○			

VIII 授業時間外の学習（予習・復習等）

常に新聞やテレビ等の経済ニュースに关心を持ち、日常生活との関わりを意識するよう心がけること。

IX その他（履修上の注意、前提条件等）

毎回簡単なレポートの提出を求め、これをもって出席確認とします。欠席が 5 日を超えた場合原則として単位を出しません。講義中私語が目に余る場合は退席させる場合があります。この場合は欠席扱いとします。

授業科目名	単位数		学科	年次	担当教員
	必修	選択			
くらしと日本の憲法		2	日英音	1	大森貴弘

I 主題

私たちの暮らしと日本国憲法がどのように関わっているかを考え、人権尊重の意識を養うこと

が主題である。

II 授業の到達目標

- 基礎的な法解釈の素養を養う。
- 憲法学の基礎的な概念を習得する。
- 憲法の条文に関するトピックについて論述できるようになる。

III 授業の概要

毎回レジュメを配布し、憲法条文を参考しつつ講義し、最後に試験を行う。

IV 授業計画と内容

項目	内 容
1. ガイダンス	憲法とは何だろう
2. 国民主権／象徴天皇制	国民主権と象徴天皇制とのかかわり
3. 日本国憲法の成立過程	憲法成立時の映像を見て感想を書く
4. 平和主義	9条および集団的自衛権について
5. 基本人権の成立史	人権はいつ成立したか
6. 自由権（1）内心の自由	思想良心の自由／信教の自由
7. 自由権（2）表現の自由	表現の自由の大切さ
8. 自由権（3）経済的の自由／人身の自由	職業選択の自由／黙秘権
9. 参政権／社会権	選挙について／教育を受ける自由
10. 幸福追求権／平等原則	新しい人権／平等について
11. 統治機構（1）国会	国会の役割と地位について
12. 統治機構（2）内閣	内閣とは何だろう／総理大臣
13. 統治機構（3）裁判所／違憲審査制	裁判所の構成／憲法の番人について
14. 統治機構（4）権力分立	立法・行政・司法の分立について
15. 地方自治／憲法改正	地方自治の本旨／憲法改正の手続き

定期試験 筆記試験を実施する。

V 使用テキスト・教材等

レジュメを配布するが憲法の条文を持参のこと。（例、『ポケット六法』を持参する等。）

VI 参考書・参考資料

芦部信喜『憲法 第五版』岩波書店／工藤達朗『よくわかる憲法』ミネルヴァ書房。

VII 成績評価の方法及び基準

成績評価方法	試験	小テスト・レポート	成果発表・作品	出席状況・授業態度	その他()
学習項目					
配点比率(%) 合計 100	85	10		5	
基礎的概念の習得	○				
憲法への興味・関心		○			
時事的関心の涵養				○	
文章表現力	○	○			

VIII 授業時間外の学習（予習・復習等）

予習…参考書の該当箇所を読んでよい。

復習…配布したレジュメを読み返す。教員採用試験を受験する者は頻出事項の習得。

IX その他（履修上の注意、前提条件等）

授業中に積極的に発言した者には加点し、態度が悪い場合には減点することがある。
あまりに態度が悪い場合は教室外に退出させる。

授業科目名	単位数		学科	年次	担当教員
	必修	選択			
くらしと日本の憲法		2	保	1	木宮岳志

I 主題

くらしと憲法の関わりを知ること。

II 授業の到達目標

1. 日本国憲法の基礎を理解し、法の基本的役割がわかるようになる。
2. 憲法をめぐる社会問題に関心が持てるようになる。
3. 物事を論理的に考えることができるようになる。

III 授業の概要

テキストを中心に講義形式で行うが、授業の最後に理解度を確認させる。

IV 授業計画と内容

項目	内容
1. オリエンテーション	日本国憲法の基本原理
2. 基本的人権と公共の福祉	人権の種類、公共の福祉の意味
3. 精神的自由権	信教の自由、表現の自由等
4. 経済的自由権	財産権、営業の自由等
5. 法の下の平等	自由と平等の関係、平等の本質
6. 社会権	社会権の本質、生存権
7. 人権の主体	子どもの人権、外国人の人権
8. 新しい人権	新しい人権の意味、プライバシー権
9. 死刑制度	死刑の憲法上の問題点
10. 平和主義	平和主義の本質と内容
11. 国会	間接民主制、二院制等
12. 内閣	議院内閣制と首相公選制
13. 裁判所	司法の役割、裁判員制度
14. 地方自治	地方における民主主義、住民投票等
15. まとめ	今までの授業内容の振り返り

定期試験 筆記試験を実施する。

V 使用テキスト・教材等

初宿正典・高橋正俊・米沢広一・棟居快行『いちばんやさしい憲法入門 第4版』

有斐閣

VI 参考書・参考資料

必要に応じて、プリントや資料を配布する。

VII 成績評価の方法及び基準

成績評価方法 学習項目	試験	小テスト・レポート	成果発表・作品	出席状況・授業態度	その他()
配点比率(%) 合計 100	50	25		25	
基礎的知識の理解	○	○			
社会的好奇心の涵養		○		○	
論理的思考力の習得	○				
文章表現力の習得	○	○			

VIII 授業時間外の学習(予習・復習等)

予習…テキストの該当箇所を事前に読んで、何が問題か自分で考えておく。

復習…コメントシートで理解度を確認し、テキストや配布資料を読み返す。

IX その他(履修上の注意、前提条件等)

5回以上欠席した場合は、原則として定期試験を受けることができない。

注意しても私語を止めない場合は、受講させない。その場合は欠席扱いとなる。

授業科目名	単位数		学科	年次	担当教員
	必修	選択			
くらしと科学		2	日英 保音	1	湯佐泰久

I 主題

この授業では我々の「くらし」に役立つ科学的な知識・情報について学ぶ。

II 授業の到達目標

- 我々のくらしに関する諸問題について理解ができるようになる。
- 我々のくらしに役立つ科学の知識を習得できるようになる。
- さらに、科学的なものの見方・考え方を身につけ、日常の生活に応用できるようになる。

III 授業の概要

「くらしに役立つ科学」に関する資料を収集し、その考察を元に理解を深める。

IV 授業計画と内容

項目

- ガバナンス・科学とは
- 科学的な見方
- くらしの中の科学
- くらしと地球の科学
- くらしと自然現象①
- くらしと自然現象②
- くらしと生命の科学
- くらしと資源
- くらしとエネルギー
- くらしと化学物質
- くらしと放射線
- くらしと水の科学
- くらしと汚染問題
- 未来のくらし
- まとめ

定期試験

内容

- 授業のねらい・計画の説明、科学とは何か
 科学的な見方（確率・統計）、科学の特徴
 衣食住の科学、サイエンス & テクノロジー
 地球の誕生と進化、日本の自然、自然災害
 地震発生の仕組み、地震予知、防災対策
 火山噴火の仕組み、噴火予知と防災マップ
 生命の仕組と多様性、生命・人類の誕生と進化
 資源の種類と利用、限りある資源、資源の特徴
 エネルギーの種類、その長所と短所
 人工化学物質とその特性、その問題と対策
 自然放射線と人工放射線、放射線と放射能
 水の性質とその循環
 環境汚染（大気・水質・土壤汚染、放射能汚染）
 これからの中の世界、未来の科学・医療・くらし
 まとめ・総復習
 筆記試験

V 使用テキスト・教材等

テキストは使用しない。教材資料としてプリントを配布する。

VI 参考書・参考資料

参考書は使用しない。適時、参考資料としてプリントを配布する。

VII 成績評価の方法及び基準

学習項目	成績評価方法		試験	小テスト・レポート	成果発表・作品	出席状況・授業態度	その他()
	配点比率(%)	合計 100					
『くらしに関する諸問題』の理解	○	○	20	40		○	
『くらしに役立つ科学の知識』の習得	○	○				○	
『科学的なものの見方・考え方』の習得	○	○				○	

VIII 授業時間外の学習（予習・復習等）

理解を深めるために、上記項目に関する書籍を事前に読んでおくことが望ましい。

IX その他（履修上の注意、前提条件等）

受講状況（出席回数・小テスト・授業態度）が良ければ単位はとれるので、授業に積極的に参加すること。

授業科目名	単位数		学科	年次	担当教員
	必修	選択			
くらしとマナー		2	日英 保音	1	丸尾和子、安部桂子

I 主題

前期に学習した「ホスピタリティ概説」の内容を再度振り返りつつ、人と人がコミュニケーションをとる際の「マナー」の重要性について考え、卒業後の実社会で必要とされるビジネスマナーを習得する。前期に「ホスピタリティ概説」を学習した学生にとっては、実社会で即戦力となりうるマナーの定着と表現力の伸長を目指したい。

II 授業の到達目標

- 1.人の気持ちを察する「気づきのセンス」の重要性について学習する
- 2.好印象を与えるマナーの5原則を体得し、コミュニケーション能力を伸ばす
- 3.国際人として身につけたい様々なシーンにおけるマナーやビジネスマナーを習得する

III 授業の概要

日常生活のみならず国際人としてのマナーを知り、ロールプレイング等で実践し体得する。

IV 授業計画と内容

項目	内 容
1. オリエンテーション	授業概要
2. プrezentation実習①	スピーチ
3. コミュニケーション①	好印象を与える表情・姿勢・アイコンタクト・身だしなみ
4. コミュニケーション②	好印象を与える美しい身のこなし
5. コミュニケーション③	好印象を与える話し方・聞き方
6. コミュニケーション④	DVD 視聴・気づきの重要性
7. コミュニケーション⑤	正しい言葉遣い・敬語遣い
8. コミュニケーション⑥	ロールプレイング
9. コミュニケーション⑦	ユニバーサルデザイン
10. コミュニケーション⑧	ユニバーサルデザイン
11. コミュニケーション⑨	ソーシャルネットワーク社会のマナー
12. 国際人としてのマナー①	様々な国際的シーンにおけるマナー
13. 国際人としてのマナー②	様々な国際的シーンにおけるマナー
14. Präsentation実習②	スピーチ
15. まとめ	

V 使用テキスト・教材等

必要に応じて資料を配布する

VI 参考書・参考資料

- 「ビジネス能力検定対応ビジネスマナー基本的テキスト」キャリア総研著
 「あたりまえだけどなかなかできない敬語のルール」山岸弘子著、明日香出版社

VII 成績評価の方法及び基準

成績評価方法	試験	小テスト・レポート	成果発表・作品	出席状況・授業態度	その他()
学習項目					
配点比率(%) 合計 100	30	10		60	
プレゼンテーション能力の習得				○	
マナーの5原則の習得及びスキルアップ	○	○		○	
気づきのセンスを磨く		○		○	

VIII 授業時間外の学習（予習・復習等）

次回の授業範囲について周辺情報を収集し、自分の意見をまとめておくこと

IX その他（履修上の注意、前提条件等）

私語を慎むこと、積極的に発言すること

授業科目名	単位数		学科	年次	担当教員
	必修	選択			
環境とエコライフ		2	日英 保音	1	湯佐泰久

I 主題

この授業では「環境」と「エコライフ」に関する諸問題について学ぶ。

II 授業の到達目標

- 我々が直面している「環境問題」の実状を理解できるようになる。
- 我々の取るべき「エコライフ」を理解し、説明できるようになる。
- さらに、「環境」と「エコライフ」の知識を利用して、日常の生活に応用できるようになる。

III 授業の概要

「環境」と「エコライフ」に関する資料を説明し、その理解を深める。

IV 授業計画と内容

項目

- ガイダンス・環境とは何か
- エコロジーとエコライフ
- 循環型社会の構築
- エコライフと水
- エコライフと環境問題
- エコライフと災害、地震
- エコライフと災害、火山
- エコライフと資源
- エコライフとエネルギー
- 地球温暖化
- 環境問題①
- 環境問題②
- 環境問題③
- 環境問題④
- まとめ

定期試験

内容

- 授業のねらい・計画の説明、環境とはその基本思想、歴史的・地理的背景
 大量生産・大量消費・大量廃棄の問題
 水資源の特徴、水理と水質、おいしい水
 公害と環境問題、その考え方
 地震の種類、東海地震、その予知と対策
 火山活動、富士火山、その予知と対策
 地下資源の利用、資源の有限
 化石燃料・核燃料・新エネルギーの特徴
 温暖化の実状と対策
 農薬汚染・環境ホルモン、「沈黙の春」の思想
 水質・土壤・放射能汚染、特徴と対策
 家庭でできるエコ、ごみを減らそう
 エコクッキング、リサイクル、3R
 まとめ・総復習
 筆記試験

V 使用テキスト・教材等

テキストは使用しない。教材資料としてプリントを配布する。

VI 参考書・参考資料

参考書は使用しない。適時、参考資料としてプリントを配布する。

VII 成績評価の方法及び基準

成績評価方法	試験	小テスト・レポート	成果発表・作品	出席状況・授業態度	その他()
学習項目					
配点比率(%) 合計 100	20	40		40	
『環境問題』の理解	○	○		○	
『エコライフ』の理解	○	○		○	

VIII 授業時間外の学習(予習・復習等)

理解を深めるために、上記項目に関する書籍を事前に読んでおくことが望ましい。

IX その他(履修上の注意、前提条件等)

受講状況(出席回数・小テスト・授業態度)が良ければ単位はとれるので、授業に積極的に参加すること。

授業科目名	単位数		学科	年次	担当教員
	必修	選択			
健康とスローライフ		2	日英 保音	1	田中美幸

I 主題

この授業では、私達が地球上で健康に暮らすための基礎的な知識(身体の働きや食について)を学び、自分の体調を理解してコントロールする方法について考察する。

II 授業の到達目標

1. 身体と心の関係を理解し、自己コントロールできるようにする。
2. 身体の働きを多角的に学び、自分の体調について考察できる。
3. さらに、心身の働きと食生活についての知識を利用して、自らの生活に応用できるようになる。

III 授業の概要

身体の構造や働きを学び、食の原点について理解し、身体と心の自己コントロールの方法について理解を深める。

IV 授業計画と内容

項目	内 容
1. 健康とは	身体と心の関係について学ぶ。
2~5 地球環境と人体の働き	呼吸の重要性について学ぶ。
6. 身体のリズム	太陽・水・空気・食事・心と身体の関係を学ぶ。
7. 身体の動きと体温の働き	体温・脈拍から身体のリズムを理解する。
8. 掌から健康を考える	身体の動きと体温変化を体験し、理解する。
9. 病気の予防法について	東洋医学の考え方を体験から学ぶ。
10. 食環境について市場調査する	自分の体調を意識し理解する方法を学ぶ。
11. 食の原点について	グループ学習により、身近な食環境について理解する。
12~13 伝統食と日本人の生活	身体の働きと食の関係を学ぶ。
14. 健康とスローライフとは	体験を通して日本食の原点を学ぶ。
15. まとめ	自己コントロールの方法について学ぶ。
	今後の生活習慣について考察する。

V 使用テキスト・教材等

なし

VI 参考書・参考資料

適宜配布

VII 成績評価の方法及び基準

成績評価方法		試験	小テスト・レポート	成果発表・作品	出席状況・授業態度	その他()
学習項目	合計 100	60	10	10	20	
配点比率(%)						
身体と心をコントロールする方法を理解	○				○	
地球環境と身体の働きの関係を理解	○	○	○	○		
身近な食環境について理解	○		○	○		
心身の働きと食生活について理解	○			○		
自らの生活に応用する方法を習得	○				○	

VIII 授業時間外の学習(予習・復習等)

市場調査のレポート作成等。

テキストの図解を見て、身体の構造に慣れておくこと。

IX その他(履修上の注意、前提条件等)

授業に関係ない私語は慎むこと。授業態度を重視する。

授業科目名	単位数		学科	年次	担当教員
	必修	選択			
おもてなしの外国語 B		[1]	日英音	1	羅玉姫

I 主題

韓国語で簡単な対話ができる言葉を通じて韓国と韓国語を理解し合う。

II 授業の到達目標

- 1.韓国語の特徴を知って言葉を理解する。発音の勉強。
- 2.話しを中心に読み、書きが明確にできる。
- 3.簡単な文章を作る能力をもとに簡単な会話を能動的に展開させる。(例:人を案内する)

III 授業の概要

会話と実践を中心とした対話形式の授業を基本とします。授業は前半10分復習、20分文法、残りは文型練習、会話練習、シミュレーション、フィードバック、簡単なテストに与えます。

IV 授業計画と内容

項目	内 容
1. 韓国語の特徴、基本母音、子音	韓国語の特徴と子母音の組み合わせ
2. 発音、2重母音	発音練習、二重母音と子音(バッチム)
3. 発音、単語、簡単な文章、	発音練習、単語と文章、読み書き
4. 発音、文章作り、	発音練習、平叙文と疑問文、読み書き
5. 発音、助詞と文章	発音練習、助詞、会話練習
6. 発音練習、存在詞	発音練習、ある(いる)ない
7. 代名詞を使って会話	代名詞の使い方、会話
8. 動詞、形容詞活用1	述語部分(動詞、形容詞)
9. 動詞、形容詞活用2	述語の規則と変則
10. 過去形	過去形
11. 5W 1H	5W 1H
12. 否定、尊敬語	否定と尊敬語
13. 数詞	漢数詞と固有数詞との使い分け
14. 修飾語と文型	動詞、形容詞の名詞修飾、文型4つ
15. 総復習	総復習

V 使用テキスト・教材等

「日本語」から始める書き込み式韓国語 栗原景著

VI 参考書・参考資料

随時手作り資料を配布します。

VII 成績評価の方法及び基準

成績評価方法	試験	小テスト・レポート	成果発表・作品	出席状況・授業態度	その他()
学習項目 配点比率(%) 合計 100	40	20		40	
理解能力	○	○		○	
聞き取り				○	
読み取り	○	○		○	
発表能力				○	
会話能力				○	

VIII 授業時間外の学習(予習・復習等)

- 1 . 6回目の授業の時まで母音、子音40字の形とその音を覚えること。
- 2 . 10回目:書き練習として静岡県の主な観光地を紹介する、15回目は聞き取り練習:聴き、話すTest実施

IX その他(履修上の注意、前提条件等)

授業科目名	単位数		学科	年次	担当教員
	必修	選択			
情報リテラシー		2	日英 保音	1	谷口真嗣

I 主題

情報化社会で生き抜くためには、情報の仕組みや流れなどを理解することが必須である

II 授業の到達目標

- 1.コンピュータの基本構成や機能などを理解する
- 2.インターネットを例に、セキュリティや法律などについて理解する
- 3.コンピュータやインターネットを的確に利用できる力を身につける

III 授業の概要

情報化社会で必要な基本的なスキル(基本的な仕組みや特性、関連する法律など)を身につける

IV 授業計画と内容

この授業はテキスト中心で行うが、授業の最後に簡単な小レポートを行う

項目	内 容
1. インターネットの基礎知識	インターネットの歴史とサービス
2. セキュリティと法令	セキュリティと法律、意識の問題 など
3. 情報の伝達	インターネットを利用した情報の伝達について
4. 権利の保護と自己管理	著作権、違法コピー など
5-6. コンピュータの基本構成と機能	コンピュータの種類と特徴、構成要素、CPU とメモリ、OS の種類、ファイルの種類など
7-8. ソフトウェア	ソフトウェアの種類と選定
9-10. システム管理と運用管理	ディスクとメモリ容量、ハードウェアの管理、性能管理と障害対策、ファイル管理
11-13. データベース	データベースの機能と特徴、RDB、検索、データベースとしてのインターネット
14. 新しいオフィス形態	移動体通信、モバイルコンピューティングなど
15. まとめ	
定期試験	筆記試験

V 使用テキスト・教材等

技術評論社『よくわかる情報リテラシー』、プリント配布

VI 参考書・参考資料

日経 BP 社『ひと目でわかる最新 情報モラル』

VII 成績評価の方法及び基準

学習項目	成績評価方法		試験	小テスト・レポート	成果発表・作品	出席状況・授業態度	その他 ()
	配点比率(%)	合計 100					
基礎知識	○	○				○	
セキュリティ	○	○				○	
社会倫理と自己管理	○	○				○	
データベース など	○	○				○	

VIII 授業時間外の学習(予習・復習等)

新聞や雑誌・TV など各種メディアでの先端技術に関する報道に興味を持つこと。
率先してコンピュータを使用すること。

IX その他(履修上の注意、前提条件等)

授業科目名	単位数		学科	年次	担当教員
	必修	選択			
情報とコンピュータ I		[1]	日英音	1	鈴木秀治、川口玲子

I 主題

一般社会で必須であるコンピュータスキル。演習を通して活用できるスキルを身に付ける。

II 授業の到達目標

- 1.コンピュータの基本的な操作を理解し、入力はブレインドタッチを目標とする
- 2.ワープロや表計算ソフトを活用するためのテクニックを身につける
- 3.思い通りの書類作成が行えるようになる

III 授業の概要

コンピュータやインターネットをツールとして使いこなす知識とテクニックを身につける

IV 授業計画と内容

文書作成、表計算演習と共に、入力スピードを養うために毎時間タイピング練習を行う。

項目	内容
1. ガイダンス	演習室の使い方、授業の進め方等の説明
2-3. コンピュータの基本操作	基本操作（ファイルとフォルダ、コピー、移動）、ファイル形式とその操作 等
4-5. インターネットと情報セキュリティー	E-Mail の取得とインターネットの利用 情報検索、情報セキュリティーについて 等
6-9. 文書作成演習	文書管理と文字列操作 段落と図の操作 表と文書の操作 おたより 等
10-15. 表計算演習	Excel の基本概念と操作 セルの操作と書式設定 グラフと図 データベース機能 関数 等

定期試験 実技試験

V 使用テキスト・教材等

実教出版『30時間アカデミック Windows Vista 対応 Excel2007』

USB ディスク(各自用意すること: 初回の授業で説明します)

VI 参考書・参考資料**VII 成績評価の方法及び基準**

学習項目	成績評価方法		試験	小テスト・レポート	成果発表・作品	出席状況・授業態度	その他()
	配点比率(%)	合計 100					
タイピング速度			50	20		30	
文書作成演習				○		○	
表計算演習			○			○	

VIII 授業時間外の学習(予習・復習等)

配布するタイプレッスンソフト等を利用して、指定した入力数を超えるよう練習すること

IX その他(履修上の注意、前提条件等)

授業科目名	単位数		学科	年次	担当教員
	必修	選択			
情報とコンピュータ I		[1]	保	1	谷口真嗣、鈴木秀治

I 主題

一般社会で必須であるコンピュータスキル。演習を通して活用できるスキルを身に付ける。

II 授業の到達目標

- 1.コンピュータの基本的な操作を理解し、入力はブレインドタッチを目標とする
- 2.ワープロや表計算ソフトを活用するためのテクニックを身につける
- 3.思い通りの書類作成が行えるようになる

III 授業の概要

コンピュータやインターネットをツールとして使いこなす知識とテクニックを身につける

IV 授業計画と内容

文書作成、表計算演習と共に、入力スピードを養うために毎時間タイピング練習を行う。

項目	内 容
1. ガイダンス	演習室の使い方、授業の進め方等の説明
2-3. コンピュータの基本操作	基本操作（ファイルとフォルダ、コピー、移動）、ファイル形式とその操作 等
4-5. インターネットと情報セキュリティー	E-Mail の取得とインターネットの利用 情報検索、情報セキュリティーについて 等
6-9. 文書作成演習	文書管理と文字列操作 段落と図の操作 表と文書の操作 おたより 等
10-15. 表計算演習	Excel の基本概念と操作 セルの操作と書式設定 グラフと図 データベース機能 関数 等

定期試験 実技試験

V 使用テキスト・教材等

萌文書林『保育者のためのパソコン講座』

USB ディスク(各自用意すること:初回の授業で説明します)

VI 参考書・参考資料**VII 成績評価の方法及び基準**

成績評価方法	試験	小テスト・レポート	成果発表・作品	出席状況・授業態度	その他()
学習項目 配点比率(%) 合計 100	50	20		30	
タイピング速度		○		○	
文書作成演習	○			○	
表計算演習	○			○	

VIII 授業時間外の学習(予習・復習等)

配布するタイプレッスンソフト等を利用して、指定した入力数を超えるよう練習すること

IX その他(履修上の注意、前提条件等)

授業科目名	単位数		学科	年次	担当教員
	必修	選択			
情報とコンピュータⅡ		[1]	日英 保音	1	谷口真嗣、鈴木秀治 川口玲子

I 主題

一般社会では的確にまとめ、発表するプレゼンテーション能力が必須である。

II 授業の到達目標

1. 伝えたい事は何かを的確にまとめるテクニックを身につける
2. 聴衆にどう伝えるべきか様々な角度で考察する力を身につける
3. ツールを利用し、聴衆の前で説得力のあるプレゼンテーションを行うことができる

III 授業の概要

プレゼンテーションとは何か基本を理解し、まとめ、発表する。

IV 授業計画と内容

資料のまとめ方や表現方法を習得すると共に、各自が設定したテーマで発表を行う。

項目	内 容
1. 表計算の応用	Excel の応用
2. 課題作成	"
3. プrezentationの概要	概要と作成の流れ 等
4-5. プrezentation作成の準備	各種シートの概要と作成 など
6-9. 操作と表現方法	画面構成、スライドの作成と編集、各種配布資料の作成、アニメーション効果、図や写真等の挿入 等
10-14. プrezentation資料の作成	テーマを設定し実際に資料を作成する
15. プrezentationの発表	発表

V 使用テキスト・教材等

実教出版『30時間アカデミック Windows 対応 プrezentation+PowerPoint2007/2010』
USBディスク(各自用意すること:初回の授業で説明します)

VI 参考書・参考資料**VII 成績評価の方法及び基準**

成績評価方法	試験	小テスト・レポート	成果発表・作品	出席状況・授業態度	その他
学習項目 配点比率(%) 合計 100			40	30	30
発表テーマの設定(確認シート作成) " をまとめる(構成シート作成)				○	○
説得力のあるプレゼンテーション			○	○	○

VIII 授業時間外の学習(予習・復習等)

新聞・雑誌・TVなど、各種メディアによる聴衆にアピールする手法に興味を持つこと。
率先してコンピュータを使用すること。

IX その他(履修上の注意、前提条件等)

授業科目名	単位数		学科	年次	担当教員
	必修	選択			
運動と健康		2	日英 保健	2	鈴木雅裕

I 主題

人体の基本的な構造や機能を知り、運動と健康の関係について科学的な捉え方を学ぶ。

II 授業の到達目標

- 現代社会における健康の捉え方を学び、人体の基本的な構造と機能を理解する。
- 運動の発現や持続の仕組みを理解し、日常生活における身体の動き方を考える。
- 健康成立のための3条件である運動・栄養・休養の役割を理解し、実践する。

III 授業の概要

テキストにより身体の構造・機能を知り、運動時の役割の理解を深める。

IV 授業計画と内容

項目	内 容
1. オリエンテーション	受講上の注意等
2. 健康のとらえ方	健康の定義およびその変遷
3. 人体の名称	人体各部の名称及び区分
4. 人体の基本的構造と機能 1	筋・骨格系
5. 人体の基本的構造と機能 2	脳・神経系
6. 人体の基本的構造と機能 3	呼吸器・循環器系
7. 人体の基本的構造と機能 4	消化器・内分泌系
8. 人体の基本的構造と機能 5	感覚器など
9. 運動と健康 1	運動不足の影響
10. 運動と健康 2	運動が身体に及ぼす影響
11. 運動と健康 3	運動処方
12. 健康と休養 1	休養とストレス
13. 健康と休養 2	ストレス耐性
14. 健康と栄養	食物の消化・吸収、食生活
15. ウエルネス	ライフスタイルと健康の関係

V 使用テキスト・教材等

浅野伍朗監修『からだの仕組み事典』成美堂出版

VI 参考書・参考資料**VII 成績評価の方法及び基準**

成績評価方法 学習項目	試験	小テスト・レポート	成果発表・作品	出席状況・授業態度	その他
配点比率(%) 合計 100	30	20		50	
人体構造の基本的知識の理解	○	○			
人体機能の基本的知識の理解	○	○			
運動方法の理解および実践	○	○		○	

VIII 授業時間外の学習（予習・復習等）

授業時に学習したことのもとに、自らの生活の見直しを行うこと。

IX その他（履修上の注意、前提条件等）

大まかで良いので、自分の生活記録をつけること。

授業科目名	単位数		学科	年次	担当教員
	必修	選択			
スポーツ A		(1)	日英音	1	鈴木雅裕

I 主題

身体運動の意義・役割を理解し、生涯スポーツの在り方を理解する。

II 授業の到達目標

- 現代社会における身体運動の役割を知り、各種のトレーニング方法を知る。
- 身体運動に関する自らの能力を理解し、より高めるため方法を学ぶ。
- スポーツの特性を理解した上で、その実践に必要な事項を理解する。

III 授業の概要

各種スポーツの実践を通して、自分の適正に応じたスポーツの在り方を考察する。

IV 授業計画と内容

項目	内 容
1. オリエンテーション	受講上の注意等
2. 基礎トレーニング 1	身体特性の確認・基礎トレーニング
3. 基礎トレーニング 2	基礎トレーニング
4. ネット型スポーツ (集団) 1	種目特性の理解・基本技術の習得
5. ネット型スポーツ (集団) 2	基本技術の習得・ルールの理解
6. ネット型スポーツ (集団) 3	ゲームの運営と実践
7. ネット型スポーツ (集団) 4	ゲームの運営と実践
8. ネット型スポーツ (個人) 1	種目特性の理解・基本技術の習得
9. ネット型スポーツ (個人) 2	基本技術の習得・ルールの理解
10. ネット型スポーツ (個人) 3	ゲームの運営と実践
11. ネット型スポーツ (個人) 4	ゲームの運営と実践
12. ゴール型スポーツ 1	種目特性の理解・基本技術の習得
13. ゴール型スポーツ 2	基本技術の習得・ルールの理解
14. ゴール型スポーツ 3	ゲームの運営と実践
15. ゴール型スポーツ 4	ゲームの運営と実践

V 使用テキスト・教材等

テキストは使用しない。必要に応じてプリントを配布する。

VI 参考書・参考資料**VII 成績評価の方法及び基準**

成績評価方法 学習項目	試験	小テスト・レポート	成果発表・作品	出席状況・授業態度	その他()
配点比率(%) 合計 100		20		80	
スポーツの特性・ルールの理解		○		○	
スポーツの基本的技術の習得		○		○	
トレーニング方法の理解		○		○	

VIII 授業時間外の学習（予習・復習等）

日常生活に身体運動の実践を取り入れ、身体運動の意義について理解を深めること。

IX その他（履修上の注意、前提条件等）

身体運動に適切な服装や用具を着用し、衛生および安全にも配慮すること。

授業科目名	単位数		学科	年次	担当教員
	必修	選択			
ス ポ ー ツ A		(1)	保	1	戸藤利明

I 主題

快適な社会生活を営むために、体育やスポーツの意義・役割の重要性を認識し、健康的なライフスタイルを実現する。

II 授業の到達目標

- 運動を通して、日常の心身の状態を把握し、コントロールすることが出来る。
- 自己実現・自己表現することにより、コミュニケーション力を高めることが出来る。
- ルール・マナーを通して、社会性を身につけることが出来る。

III 授業の概要

技術的・能力的なことは問いません。笑顔で楽しく、気持ちよく身体を動かし、お互いが助け合い、競い合い、教え合う学生主体の授業とする。

IV 授業計画と内容

項目	内 容
1. オリエンテーション	授業の目的、受講上の注意等
2. バレーボール	練習・試合方法の説明・チーム対抗戦
3. バレーボール	チーム対抗戦
4. バレーボール	チーム対抗戦
5. バレーボール	チーム対抗戦
6. バスケットボール	練習・試合方法の説明・チーム対抗戦
7. バスケットボール	チーム対抗戦
8. バスケットボール	チーム対抗戦
9. バスケットボール	チーム対抗戦
10. バドミントン	練習・試合方法の説明・チーム対抗戦
11. バドミントン	チーム対抗戦
12. バドミントン	チーム対抗戦
13. バドミントン	チーム対抗戦
14. 選択 (ドッヂボール・テニス・卓球等)	実施方法の説明・自主ゲーム
15. 選択 (ドッヂボール・テニス・卓球等)	自主ゲーム

※実施種目や時間数等は試合の流れや時間により変更する場合がある。

※実技を開始する前に簡単なトレーニングやストレッチ等を行う。

V 使用テキスト・教材等

特に使用しない。

VI 参考書・参考資料

『思い立ったら体力づくり』 窪田登著 大修館書店

VII 成績評価の方法及び基準

成績評価方法 学習項目	試験	小テスト・ レポート	成果発 表・作品	出席状況・ 授業態度	その他 (自己実現)
配点比率(%) 合計 100				80	20
自己コンディションのコントロール				○	○
コミュニケーション能力				○	○
相互理解				○	○

VIII 授業時間外の学習（予習・復習等）

健康を意識し、毎日の生活の中にストレッチやジョギング等身体を動かすことを取り入れる。

IX その他（履修上の注意、前提条件等）

履修上の注意…オリエンテーションの時から、必ず運動に適したウェア（上・下）と運動靴（体育館シューズ）を持参する。

授業科目名	単位数		学科	年次	担当教員
	必修	選択			
ス ポ 一 ツ B		(1)	日英	2	戸藤利明

I 主題

快適な社会生活を営むために、体育やスポーツの意義・役割の重要性を認識し、健康的なライフスタイルを実現する。

II 授業の到達目標

- 運動を通して、日常の心身の状態を把握し、コントロールすることが出来る。
- 自己実現・自己表現することにより、コミュニケーション力を高めることが出来る。
- ルール・マナーを通して、社会性を身につけることが出来る。

III 授業の概要

技術的・能力的なことは問いません。笑顔で楽しく、気持ちよく身体を動かし、お互いが助け合い、競い合い、教え合う学生主体の授業とする。

IV 授業計画と内容

項目	内 容
1. オリエンテーション	授業の目的、受講上の注意等
2. バレーボール	練習・試合方法の説明・チーム対抗戦
3. バレーボール	チーム対抗戦
4. バレーボール	チーム対抗戦
5. バレーボール	チーム対抗戦
6. バスケットボール	練習・試合方法の説明・チーム対抗戦
7. バスケットボール	チーム対抗戦
8. バスケットボール	チーム対抗戦
9. バスケットボール	チーム対抗戦
10. バドミントン	練習・試合方法の説明・チーム対抗戦
11. バドミントン	チーム対抗戦
12. バドミントン	チーム対抗戦
13. バドミントン	チーム対抗戦
14. 選択（ドッヂボール・テニス・卓球等）	実施方法の説明・自主ゲーム
15. 選択（ドッヂボール・テニス・卓球等）	自主ゲーム

※履修者の人数により、実施種目、時間数、試合の流れ等は変更する場合がある。

※実技を開始する前に簡単なトレーニングやストレッチ等を行う。

V 使用テキスト・教材等

特に使用しない。

VI 参考書・参考資料

『思い立ったら体力づくり』窪田登著 大修館書店

VII 成績評価の方法及び基準

成績評価方法 学習項目	試験	小テスト・ レポート	成果発 表・作品	出席状況・ 授業態度	その他 (自己実現)
配点比率(%) 合計 100				80	20
自己コンディションのコントロール				○	○
コミュニケーション能力				○	○
相互理解				○	○

VIII 授業時間外の学習（予習・復習等）

健康を意識し、毎日の生活の中にストレッチやジョギング等身体を動かすことを取り入れる。

IX その他（履修上の注意、前提条件等）

履修上の注意…オリエンテーションの時から、必ず運動に適したウェア（上・下）
と運動靴（体育館シューズ）を持参する。

授業科目名	単位数		学科	年次	担当教員
	必修	選択			
ス ポ 一 ツ B		(1)	保	2	戸藤利明

I 主題

快適な社会生活を営むために、体育やスポーツの意義・役割の重要性を認識し、健康的なライフスタイルを実現する。

II 授業の到達目標

- 運動を通して、日常の心身の状態を把握し、コントロールすることが出来る。
- 自己実現・自己表現することにより、コミュニケーション力を高めることが出来る。
- ルール・マナーを通して、社会性を身につけることが出来る。

III 授業の概要

技術的・能力的なことは問いません。笑顔で楽しく、気持ちよく身体を動かし、お互いが助け合い、競い合い、教え合う学生主体の授業とする。

IV 授業計画と内容

項目	内 容
1. オリエンテーション	授業の目的、受講上の注意等
2. バレーボール	練習・試合方法の説明・チーム対抗戦
3. バレーボール	チーム対抗戦
4. バレーボール	チーム対抗戦
5. バドミントン	練習・試合方法の説明・チーム対抗戦
6. バドミントン	チーム対抗戦
7. バドミントン	チーム対抗戦
8. ユニホック	練習・試合方法の説明・チーム対抗戦
9. ユニホック	チーム対抗戦
10. ユニホック	チーム対抗戦
11. ユニホック	チーム対抗戦
12. フットサル	練習・試合方法の説明・チーム対抗戦
13. フットサル	チーム対抗戦
14. フットサル	チーム対抗戦
15. ドッヂボール	実施方法の説明・対抗戦

※履修者の人数により、実施種目、時間数、試合の流れ等は変更する場合がある。

※実技を開始する前に簡単なトレーニングやストレッチ等を行う。

V 使用テキスト・教材等

特に使用しない。

VI 参考書・参考資料

『思い立ったら体力づくり』窪田登著 大修館書店

VII 成績評価の方法及び基準

成績評価方法 学習項目	試験	小テスト・ レポート	成果発 表・作品	出席状況・ 授業態度	その他 (自己実現)
配点比率(%) 合計 100				80	20
自己コンディションのコントロール				○	○
コミュニケーション能力				○	○
相互理解				○	○

VIII 授業時間外の学習（予習・復習等）

健康を意識し、毎日の生活の中にストレッチやジョギング等身体を動かすことを取り入れる。

IX その他（履修上の注意、前提条件等）

履修上の注意…オリエンテーションの時から、必ず運動に適したウェア（上・下）
と運動靴（体育館シューズ）を持参する。

授業科目名	単位数		学科	年次	担当教員
	必修	選択			
ス ポ 一 ツ B		(1)	音	2	戸藤利明

I 主題

快適な社会生活を営むために、体育やスポーツの意義・役割の重要性を認識し、健康的なライフスタイルを実現する。

II 授業の到達目標

- 運動を通して、日常の心身の状態を把握し、コントロールすることが出来る。
- 自己実現・自己表現することにより、コミュニケーション力を高めることが出来る。
- ルール・マナーを通して、社会性を身につけることが出来る。

III 授業の概要

技術的・能力的なことは問いません。笑顔で楽しく、気持ちよく身体を動かし、お互いが助け合い、競い合い、教え合う学生主体の授業とする。

IV 授業計画と内容

項目	内 容
1. オリエンテーション	授業の目的、受講上の注意等
2. バドミントン	練習・試合方法の説明・チーム対抗戦
3. バドミントン	チーム対抗戦
4. バドミントン	チーム対抗戦
5. バドミントン	チーム対抗戦
6. ビーチバレーボール	練習・試合方法の説明・チーム対抗戦
7. ビーチバレーボール	チーム対抗戦
8. ビーチバレーボール	チーム対抗戦
9. テニス	技術の習得
10. テニス	技術の習得
11. テニス	技術の習得
12. テニス	技術の習得
13. テニス	技術の習得
14. テニス	技術の習得
15. ドッヂボール	実施方法の説明・対抗戦

※履修者の人数により、実施種目、時間数、試合の流れ等は変更する場合がある。

※実技を開始する前に簡単なトレーニングやストレッチ等を行う。

V 使用テキスト・教材等

特に使用しない。

VI 参考書・参考資料

『思い立ったら体力づくり』窪田登著 大修館書店

VII 成績評価の方法及び基準

成績評価方法 学習項目	試験	小テスト・ レポート	成果発表・作品	出席状況・ 授業態度	その他 (自己実現)
配点比率(%) 合計 100				80	20
自己コンディションのコントロール				○	○
コミュニケーション能力				○	○
相互理解				○	○

VIII 授業時間外の学習（予習・復習等）

健康を意識し、毎日の生活の中にストレッチやジョギング等身体を動かすことを取り入れる。

IX その他（履修上の注意、前提条件等）

履修上の注意…オリエンテーションの時から、必ず運動に適したウェア（上・下）と運動靴（体育館シューズ）を持参する。

授業科目名	単位数		学科	年次	担当教員
	必修	選択			
英語圏の文化と言葉 A		[2]	日音	1	巻口勇一郎

I 主題

英語のコミュニケーションスキルを高める

II 授業の到達目標

- 読む、書く、聴く、話す能力を高める。
- 英文を通じて時事問題が理解できる。
- 欧米の文化や思想について理解できる。

III 授業の概要

音楽を聴き、その内容を理解し、読解や会話も行う。

IV 授業計画と内容

項目	内 容
1-2. リスニング、読解	セリーヌディオン、
3-4. リスニング、読解	ジャニー
5-6. リスニング、読解	オアシス
7-8. リスニング、読解	リッキーマーチン
9-10. リスニング、ライティング	Sade
11-12. リスニング、ライティング	エアロスマス
13-14. コミュニケーション	ネイティブとの交流
15-16. リスニング、ライティング	ビリージョエル
17-18. リスニング、読解	マライアキャリー
19-20. リスニング、読解	ローパー
21-22. 読解、会話	クリスマスの秘密
23-24. 会話	カナダについて
25-26. 会話	イギリスについて
27-28. リスニング、読解	Babyface
29-30. まとめ	まとめ

V 使用テキスト・教材等

角山照彦『English with Hit Songs』改訂新版 SEIBIDO

VI 参考書・参考資料

辞書等を購入すること

IV 成績評価方法及び配点比率

成績評価方法	試験	小テスト・レポート	成果発表・作品	出席状況・授業態度	その他()
学習項目					
配点比率(%) 合計 100	50			50	
読み力をつける	○				
自己表現ができる				○	
英語圏の文化を学ぶ				○	

V 授業時間外の学習(予習・復習等)

予習復習は欠かせない。

VI その他(参考文献、前提条件等)

受講人数等によって進度を調整する。受講者が少ない場合は出席、受講状況を重視する。CDに朗読等を任せるのでなくネイティブをお招きし、交流することがある。

授業科目名	単位数		学科	年次	担当教員
	必修	選択			
英語圏の文化と言葉 A		[2]	英	1	市川真矢

I 主題

英語圏のさまざまな話題に触れながら、英語力の向上を目指す。

II 授業の到達目標

Voice of America Special English の映像とニューススクリプトを利用し

1. 英語読解力を向上させる。
2. 英語聴解力を向上させる。
3. 英語を通じ、異文化への理解を深める。

III 授業の概要

テキストの文章とビデオ映像を利用しながら異文化への理解を深める。

IV 授業計画と内容

項目	内 容
1-2. Introduction & Unit 1	American Buddhists
3-4. Unit 2	Coral Reefs
5-6. Unit 3	Drummers
7-8. Unit 4	Food Stylist
9-10. Unit 5	Musical Instruments
11-12. Unit 6	Faberge
13-14. Unit 7	Bees
15-16. 前期まとめ & Unit 8	Musician Michelle Branch
17-18. Unit 9	Ocean Plastic
19-20. Unit 10	Pinball
21-22. Unit 11	Quiz Show
23-24. Unit 12	Rainforest
25-26. Unit 13	PRS Guitars
27-28. Unit 14	Women's Football
29-30. Unit 15 & 後期まとめ	Video Gamers

V 使用テキスト・教材等

John S. Lander 『English Mosaic -Special English from VOA Video』(朝日出版社)

VI 参考書・参考資料**VII 成績評価の方法及び基準**

成績評価方法	試験	小テスト・レポート	成果発表・作品	出席状況・授業態度	その他()
学習項目					
配点比率(%) 合計 100	40	40		20	
英語読解力の向上	○	○		○	
英語聴解力の向上	○	○		○	
英語による異文化の理解	○	○		○	

VIII 授業時間外の学習(予習・復習等)

担当教員より予習・復習・課題等について指示がある。

IX その他(履修上の注意、前提条件等)

授業科目名	単位数		学科	年次	担当教員
	必修	選択			
英語圏の文化と言葉 A		[2]	英	1	新妻明子

I 主題

この授業では、イギリスの歴史・文化・生活を理解し、日英の文化比較を通して両文化について理解を深める。

II 授業の到達目標

1. イギリスの歴史・文化・生活・習慣に関する英文を読み、内容を理解することができる。
2. 英語で書かれたエッセイや映像の内容を読み取り、聴き取ることができる。
3. イギリスをはじめとする英語圏の国々と日本の文化について比較する。

III 授業の概要

この授業では、イギリスの歴史や文化に関するエッセイを読み、映像を見て、日英比較や異文化理解について学ぶ。

IV 授業計画と内容

項目	内 容
1~2. Welcome to Britain	イギリスの地理
3~4. London(1): A Living History	ロンドンの歴史
5~6. London(2): Busy Street, Busy People	ロンドン中心部
7~8. London(3): The Play's the Thing	ロンドンと演劇
9~10. In the Heart of England: Cotswolds	イングランド中心部
11~12. Manchester: City of Move	マンチェスター
13~14. York and Haworth: Medieval City and Romantic Moors 15. 前期のまとめ	ヨークの地理・歴史
16~17. The Lake District: A Poetic Landscape	湖水地方の歴史
18~19. The Roman Frontier: Hadrian's Wall and the Antonine Wall	ローマ帝国とイギリス
20~21. Edinburgh: Athens of the North	エдинバラの歴史
22~23. Loch Ness: The Scottish Highlands	ネス湖とネッシー
24~25. Islay and Skye: The Inner Hebrides, South to North	アイラ島とスカイ島
26~27. Orkney: Echoes of a Distant Past	オークニー諸島
28~29. Northern Ireland: A Legendary Coastline	北アイルランド
30. Wales: Land of Castles	ウェールズ地方
定期試験	
筆記試験	

V 使用テキスト・教材等

『行ってみたくなるイギリス Passport to Britain (DVD付)』Mark Jewel 編著(朝日出版社)

VI 参考書・参考資料

必要に応じて授業で適宜紹介する。

VII 成績評価の方法及び基準

成績評価方法	試験	小テスト・レポート	成果発表・作品	出席状況・授業態度	その他()
学習項目					
配点比率(%) 合計 100	40	20	20	20	
基本的語彙や英語表現の理解	○	○	○	○	
イギリス文化・歴史・生活に関する知識	○	○	○	○	
日本と英語圏の文化比較	○	○	○	○	

VIII 授業時間外の学習(予習・復習等)

次の時間の授業内容を予習すること。授業で指示された課題を次回までに完成させてくること。

IX その他(履修上の注意、前提条件等)

授業科目名	単位数		学科	年次	担当教員
	必修	選択			
英語圏の文化と言葉 A		[2]	保	1	鈴木克義、永倉由里 新妻明子、石谷桂子

I 主題

この授業では国際語として重要な「英語」とその背景にある「文化」について学ぶ。

II 授業の到達目標

- 日常会話に必要な基本的な英語表現を身につける。
- 「英語」の背景にある「文化」についての理解を深める。
- 子どもを対象とした英語活動を通して、その意義と楽しさを知る。

III 授業の概要

異文化間でコミュニケーションのズレが生じる場面を紹介し、その原因を考えていく。
また、幼稚園・保育園で実際に使える日常会話、歌やゲームの練習も行う。

IV 授業計画と内容

項目		内 容	各担当者より 適宜、授業内 容は追加・工 夫される。
1 オリエンテーション			
2~3 外国人が感じる「日本人」の不思議			
4~5 英語で遊ぼう！語源の妙 —Bowwowカルター—			
6~8 アメリカ人の知らない英語 —和製英語カルター—			
9~11 知っておきたい英語の知識			
12~14 英語の「構え」でコミュニケーション			
15 前期のまとめ			
中間試験（共通）			
16~19 生活文化や価値観の違いから生じるコミュニケーション・ギャップ			
20~23 知っておきたい一般常識 —ことわざカルター—			
24~29 異文化間に生じる諸問題を考えよう！			
30 後期のまとめ			
定期試験（共通）			

V 使用テキスト・教材等

【全クラス】『異文化理解おもしろクイズ』永倉由里著(開拓社)

【ACD クラス】『おススメ英語ソング＆ワークシート 28』永倉由里著 (明治図書)

【BEF クラス】『保育英語検定 3 級テキスト』(本の泉社)

VI 参考書・参考資料

各担当者より必要に応じて、プリント教材・資料を配布する。

VII 成績評価方法及び配点比率

成績評価方法	試験	小テスト・レポート	成果発表・作品	出席状況・授業態度	その他()
学習項目					
配点比率(%) 合計 100	30	30		40	
英語表現の理解と定着	○	○		○	
英語圏の文化の理解	○	○		○	
子ども英語活動		○		○	

VIII 授業時間外の学習（予習・復習等）

各担当者の指示に従うこと。

IX その他（参考文献、履修上の注意等）

各担当者の指示に従うこと。

授業科目名	単位数		学科	年次	担当教員
	必修	選択			
英語圏の文化と言葉B		[2]	日音	2	鈴木克義

I 主題

ビートルズとミュージカル映画を題材に、その歌と作品の意味や文化・歴史的な背景などを取り上げ、内容を理解した上で楽しめるようにする。

II 授業の到達目標

1. 英語と日本語のリズムや発声の違いを、英語のうたを通じて体得する
2. ビートルズや自分の好きな映画について調べ、発表ができる力を付ける
3. ビデオ映像や映画を通じて、英語圏の学生生活や人種問題などの文化を学ぶ

III 授業の概要

テキストに載っている曲だけでなく、グループで自分の選んだ英語の歌や映画を紹介し、解説してもらう。ビートルズやミュージカルに関するビデオや映画なども視聴する。

IV 授業計画と内容

- | | |
|----------------------------------|-----------------------------|
| 1. オリエンテーション（ビデオ） | 2. She Loves You, Love |
| 3. Love Me Do / Please Please Me | 4. I Want to Hold Your Hand |
| 5. Can't Buy Me Love, Help! | 6. Yesterday, Penny Lane |
| 7. Sergeant Pepper's ... | 8. Hey Jude |
| 9. Let It Be, Here Comes the Sun | 10-11. Imagine ほか |
| 12-13. サウンド・オブ・ミュージック | 14-15. マイ・フェアレディ |
| 16-17. ウエストサイド物語 | 18-19. 雨に唄えば |
| 20-21. 天使のラブソング 2 | 22-23. マンマ・ミーア！ |
| 24-25. ハイスクール・ミュージカル | 26-27. アニー |
| 28-29. ヘアスプレー | 30. まとめ |

(取り上げる曲、映画は変更する場合がある)

V 使用テキスト・教材等

C. Mosdell著、西光義弘編「The Beatles ビートルズの世界」金星堂

VI 参考書・参考資料**VII 成績評価方法及び基準**

成績評価方法 学習項目	試験	小テスト・ レポート	成果発表・ 作品	出席状況・ 授業態度	その他 ()
配点比率(%) 合計 100		20	40	40	
作品中の英語や文化の理解		○		○	
グループ課題のプレゼンテーション			○	○	

VIII 授業時間外の学習（予習・復習等）

知らない単語・表現等があったら必ず予習してきてほしい。
辞書や電子辞書等を持参のこと。

IX その他（履修上の注意、前提条件等）

メール課題の提出や質問などは、次のアドレスに送るように。
授業に遅れたり休んだりする場合も、メールで知らせること。
suzukimovies@gmail.com

授業科目名	単位数		学科	年次	担当教員
	必修	選択			
英語圏の文化と言葉B		[2]	英保	2	鈴木克義

I 主題

最近急増している「英語で保育」を行う幼稚園・プリスクールや、英語活動を導入している幼稚園等への就職を目指す学生のために、保育英語検定2級程度の英語力とコミュニケーション能力を身につける

II 授業の到達目標

- 幼稚園・保育園での指導や遠足・運動会などの課外活動が英語で行えるようにする
- 外国人の保護者と電話や連絡帳などで、コミュニケーションが図れるようにする
- 海外の保育の場面を収録したビデオ等で、英語圏の子育てなどを学ぶ

III 授業の概要

基本的に毎回テキストの1/2ユニットを行う。保育英検のテキストも併用する。
最近の保育や子育てに関するビデオなども視聴する。

IV 授業計画と内容

- | | |
|--------------------|------------------|
| 1. オリエンテーション（ビデオ） | 2-3. 保育の英会話への第一歩 |
| 4-5. みなど保育園にようこと！ | 6-7. 時間と数 |
| 8-9. 地図と道案内 | 10-11. 保育者の仕事 |
| 12-13. デイヴィーの登園と降園 | 14-15. 排泄に関する会話 |
| 16-17. 昼食 | 18-19. けがと病気 |
| 20-21. けんか | 22-23. トイレ |
| 24-25. 電話での応対 | 26-27. 遠足 |
| 28-29. 赤ちゃんのケア | 30. 卒園まとめ |

V 使用テキスト・教材等

赤松直子ほか著「保育の英会話 Childcare English」萌文書林
保育英語検定協会著「保育英語検定2級テキスト」本の泉社（未購入者のみ）

VI 成績評価方法及び基準

成績評価方法	試験	小テスト・レポート	成果発表・作品	出席状況・授業態度	その他
学習項目 配点比率(%) 合計 100	30	30		40	()
保育に関わる英語の理解	○			○	
英語によるコミュニケーションの実践		○		○	

VII 授業時間外の学習（予習・復習等）

知らない単語・表現等があったら必ず予習してきてほしい。

辞書や電子辞書等を持参のこと。

英語幼稚園・プリスクール等での校外授業や海外研修にも積極的に参加してほしい。

VIII その他（履修上の注意、前提条件等）

メール課題の提出や質問などは、次のアドレスに送るように。

授業に遅れたり休んだりする場合も、メールで知らせること。

hoikueigo2@gmail.com

授業科目名	単位数		学科	年次	担当教員
	必修	選択			
英語圏の文化と言葉B		[2]	日英 保音	2	厨子光政

I 主題

この授業では、授業科目としての英語から脱皮して、道具としての英語、使える英語、楽しい英語を習得する。

II 授業の到達目標

- 「片言のコミュニケーション」を目標に、日常で使う基本表現を習得する。
- 英語という言葉の背景にある、社会や文化について学ぶ。
- 知的好奇心をもって自ら学び、大学生に相応しい知識を身につける。

III 授業の概要

テキストのエッセイに関連して、英語のスピーチやロールプレイなどのアクティヴィティーを織り交ぜる。また可能な限り英語で授業を進める。

IV 授業計画と内容

項目	内 容
1-2. Counting Calories	ダイエットとDietの違い
3-4. A New Sports Tradition	試合前のテールゲートパーティ
5-6. As American as Apple Pie	りんごの歴史と効用
7-8. Use as Directed	賞味期限と消費期限
9-10. The End of Home Cooking	家族全員で囲む食卓
11-12. Just Follow the Recipe	日本の味付けと食事
13-14. Supplemental Health	サプリメントとダイエット
15-16. Time for Tea	さまざまなお茶文化
17-18. Fresh from the Garden	マヨネーズの歴史
19-20. Local Delicacies	日本で味わう世界の料理
21-22. Trick or Treat	伝統的ハロウィーン
23-24. Giving Thanks	サンクスギビングから正月まで
25-26. Turkey and All the Trimmings	ローストターキーの調理法
27-28. From Your Valentine	1700年前のバレンタイン
29-30. The Meaning of Easter	イースターはいつなの?

定期試験 前期と後期に分けて行う。

V 使用テキスト・教材等

須永紫乃生(他)『Food for Thought: Eating for Health and Happiness』 南雲堂

VI 参考書・参考資料

特になし。

VII 成績評価の方法及び基準

成績評価方法	試験	小テスト ・レポート	成果発 表・作品	出席状況・授 業態度	その他 (スピーチ)
学習項目					
配点比率(%) 合計 100	60			20	20
簡単な日常会話の習得	○			○	○
読解力	○			○	
文法的知識	○			○	○
文化についての理解及び知識	○			○	

VIII 授業時間外の学習（予習・復習等）

教科書のテキスト部分を事前に読んでおくこと。また、スピーチの課題に対して、原稿を準備する。

IX その他（履修上の注意、前提条件等）

必ず辞書を持参すること。英語学習に必要でないもの

（携電話、手帳、化粧道具など）を授業中に使用することは厳禁とする。

授業科目名	単位数		学科	年次	担当教員
	必修	選択			
ドイツの文化と言葉 I		[2]	日英音	1	小柴浩穎

I 主題

この授業ではドイツ語を中心にドイツについて幅広く学ぶ。

II 授業の到達目標

1. ドイツ語の基礎から学び、基本的なルールが理解できるようになる。
2. ドイツ語の重要な単語や基本的フレーズを習得し、運用できるようになる。
3. ドイツの文化や社会について学び、異文化理解について考察できる。

III 授業の概要

授業は講義形式を主として進めるが、パートナー練習、聞き取り練習、課題発表なども積極的に取り入れ、学生が主体的に学べるよう配慮する。また必要に応じて、CD、ビデオなどを視聴して、ドイツの文化や社会についても学べるよう配慮する。

IV 授業計画と内容

項目	内 容
1. ガイダンス	英語とドイツ語の相違など
2~3. アルファベット	つづりと発音
4~6. あいさつ	様々な日常のあいさつ
7~9. 動詞の現在人称変化	人称代名詞と動詞の形
10~11. 定動詞の位置	語順に関するルール①
12~14. 名詞の性と冠詞	定冠詞と不定冠詞の格変化
15. 前期のまとめ	中間試験の傾向と対策
16. 前期の復習	中間試験の返却と解説
17~18. 数字	数詞 0 ~ 2 0
19~20. 不規則動詞の現在人称変化	幹母音が変音する動詞
21~22. 前置詞	前置詞の格支配
23~25. 助動詞	語順に関するルール②
26~27. 動詞の過去人称変化	動詞の三基本形
28~29. 現在完了	語順に関するルール③
30. 後期のまとめ	期末試験の傾向と対策

V 使用テキスト・教材等

大友展也『ゼロから話せるドイツ語[改訂版]』(三修社)

VI 参考書・参考資料

榎本重男『初級ドイツ語のすべて』(白水社)

VII 成績評価の方法及び基準

成績評価方法 學習項目	試験		小テスト・ レポート	成果発表・ 作品	出席状況・ 授業態度	その他 ()
	配点比率(%)	合計 100				
ドイツ語の基本的ルールの理解	○	○			○	
簡単なドイツ語の習得	○	○			○	

VIII 授業時間外の学習(予習・復習等)

予習範囲は毎回指示するので、事前に目を通しておくこと。

IX その他(履修上の注意、前提条件等)

授業科目名	単位数		学科	年次	担当教員
	必修	選択			
ドイツの文化と言葉Ⅱ		[2]	英音	2	小柴浩穎

I 主題

この授業ではドイツ語を中心にドイツについて幅広く学ぶ。

II 授業の到達目標

- 1年間学んだドイツ語の知識を応用できるようになる。
- ドイツ語の重要単語や基本的フレーズを更に習得し、運用できるようになる。
- ドイツの文化や社会について引き続き学び、異文化理解について考察できる。

III 授業の概要

授業は講義形式を主として進めるが、パートナー練習、聞き取り練習、課題発表なども積極的に取り入れ、学生が主体的に学べるよう配慮する。また必要に応じて、CD、ビデオなどを視聴して、ドイツの文化や社会についても学べるよう配慮する。

IV 授業計画と内容

項目	内 容
1. 1年次の総復習	1年次の期末試験の返却と解説
2~3. 複合動詞	分離動詞と非分離動詞
4~6. 複合動詞と助動詞	語順に関するルール④
7~9. 複合動詞と現在完了	語順に関するルール⑤
10~11. 数字	数詞0~100
12~14. 接続詞	三種類の接続詞の用法
15. 前期のまとめ	中間試験の傾向と対策
16. 前期の復習	中間試験の返却と解説
17~18. 数字の応用	日時に関する表現
19~20. 非人称動詞	熟語表現
21~22. 命令文	勧誘表現
23~25. 受動文	語順に関するルール⑥
26~27. 形容詞	形容詞の格変化
28~29. 関係代名詞	語順に関するルール⑦
30. 後期のまとめ	期末試験の傾向と対策

V 使用テキスト・教材等

1年次の教科書を続けて使用する。

VI 参考書・参考資料

榎本重男『初級ドイツ語のすべて』(白水社)。

VII 成績評価の方法及び基準

成績評価方法	試験	小テスト・レポート	成果発表・作品	出席状況・授業態度	その他
学習項目					()
配点比率(%) 合計 100	50	30		20	
ドイツ語の基本的ルールの理解	○	○		○	
簡単なドイツ語の習得	○	○		○	

VIII 授業時間外の学習（予習・復習等）

予習範囲は毎回指示するので、事前に目を通しておくこと。

IX その他（履修上の注意、前提条件等）

授業科目名	単位数		学科	年次	担当教員
	必修	選択			
イタリアの文化と言葉 I		[2]	日英音	1	ヴィットリオ・ロッキ

I 主題

初めて触れるイタリア語に親しみ日常に密着した会話を実践していくことで、コミュニケーション能力を身に付け、外国語会話への自信へと繋げる。

II 授業の到達目標

1. イタリア語を理解し、会話が出来るようになる
2. イタリアの文化について学び、そこから言語や音楽などへの関連性を考察できる
3. 各々の学科での知識を利用して、応用できるようになる

III 授業の概要

イタリア語での会話・写真なども参考にその文化を知る

IV 授業計画と内容

1. 2. 自己紹介・挨拶・発音・名詞カード・形容詞・No. 1~10
3. 4. 人称代名詞・essere<be 動詞>・avere<持つ>・chiamarsi<呼ぶ>・年齢
5. 6. 流行歌のCDを歌詞カードを見ながら聞き、発音を練習・are 動詞変化活用
7. 8. 音楽用語・Bravo/Buono/Bello/Bene の違い・動詞・～を好む・時間
9. 10. ～が好き・量・前置詞 in・イタリアの世界遺産を写真で知る
11. 12. 再帰動詞 are・行く&来る・前置詞句の用法・イタリア人の生活を紹介
13. 14. 従属動詞 sapere (知る) volere (欲しい) sapere と conoscere の違い
15. まとめ (I)
16. 17. 18. 旅行会話・～回・～してくれて、ありがとう/～しなくて、すみません
19. 20. 天気・日にち&曜日・色・イタリア語クロスワード・
21. 22. 月日・～後・～の前に・イタリア人の生活用語
23. 24. ～の隣に・～の前に・遠くへ近くに・No. 11~100
25. 26. CDを聴いてイタリアの流行歌などを知る
27. 28. まとめ (II)
29. 30. まとめ (III)

V 使用テキスト・教材等

『イタリア語ひとさら』(遠藤礼子著)白水社 及び 辞書

VI 参考書・参考資料

Espresso1・2 (著者 Ziglio Luciana/Rizzo Giovanna)

VII 成績評価の方法及び基準

学習項目	成績評価方法		試験	小テスト・レポート	成果発表・作品	出席状況・授業態度	その他()
	配点比率(%)	合計 100					
イタリア語会話 及び イタリア文化	○	○				○	
発音と意味	○	○				○	

VIII 授業時間外の学習(予習・復習等)

毎授業後、必ず復習をしておくこと。次回の授業で行うことを予習し、積極的な態度で授業に臨むこと

IX その他(履修上の注意、前提条件等)

授業科目名	単位数		学科	年次	担当教員
	必修	選択			
イタリアの文化と言葉Ⅱ		[2]	音	2	ヴィットリオ・ロッキ

I 主題

イタリア語に親しみ日常に密着した会話を実践していくことで、コミュニケーション能力を身に付け、外国語会話への自信へと繋げる。

II 授業の到達目標

1. イタリア語を理解し、会話が出来るようになる
2. イタリアの文化について学び、そこから言語や音楽などへの関連性を考察できる
3. 各々の学科での知識を利用して、応用できるようになる

III 授業の概要

イタリア語での会話・写真なども参考にその文化を知る

IV 授業計画と内容

1. 2. 自己紹介・挨拶・発音・名詞カード・形容詞・No. 1~100
3. 4. 人称代名詞・〈be 動詞〉〈持つ〉〈呼ぶ〉等の復習・年齢
5. 6. 流行歌のCDを歌詞カードを見ながら聞き、発音を練習・are 動詞変化活用
7. 8. 音楽用語・Bravo/Buono/Bello/Beneの復習・動詞・～を好む・時間
9. 10. ～が好き・量・前置詞in・イタリアの街を写真で知る
11. 12. 再帰動詞・are, ere, ire・行く&来る・前置詞句の用法
13. 14. 従属動詞 sapere (知る) volere (欲しい) dovere (～しなければならない) potere (出来る) sapere と conoscere の違い
15. まとめ (I)
16. 17. 18. 旅行会話・過去形・～回・イタリア人の生活習慣
19. 20. 天気・日ごろの天気・曜日・色・No. 100~1000以上
21. 22. 未来形・月日・～後・～の前に・イタリア人の生活用語
23. 24. ～の隣に・～の前に・遠く～近くに・番号(順番)
25. 26. CDを聴いてイタリアの流行歌などを知り言葉を覚える
27. 28. まとめ (II)
29. 30. まとめ (III)

V 使用テキスト・教材等

『イタリア語ひとさら』(遠藤礼子著)白水社 及び 辞書

VI 参考書・参考資料

Espresso1・2 (著者 Ziglio Luciana/Rizzo Giovanna)

VII 成績評価の方法及び基準

学習項目	成績評価方法		試験	小テスト・レポート	成果発表・作品	出席状況・授業態度	その他()
	配点比率(%)	合計 100					
イタリア語会話 及び イタリア文化	○	○			○		
発音と意味	○	○			○		

VIII 授業時間外の学習(予習・復習等)

毎授業後、必ず復習をしておくこと。次回の授業で行うことを予習し、積極的な態度で授業に臨むこと

IX その他(履修上の注意、前提条件等)

授業科目名	単位数		学科	年次	担当教員
	必修	選択			
中国の文化と言葉		[2]	日	1	俞虹

I 主題

入門者のための楽しい中国語。

II 授業の到達目標

1. 中国式のローマ字を見て、正確な発音ができるようになること。
2. 中国語の基礎的な表現法をマスターし、簡単な日常会話ができるようになること。
3. 中国語検定準4級レベルを目指す。

III 授業の概要

本コースは、中国語入門コースである。中国語は、漢字で表記するので、日本人には一見学習しやすいと思われるがちである。しかし、中国語の発音は、日本語よりはるかに豊富であるため、日本人にとっては、正確な発音ができるようになるまでにはかなりの努力を要する。

IV 授業計画と内容

項目		内 容
1~3	発音 1~3	中国語とは? 母音の学習/会話①~③
4~6	発音 4~6	中国語の子音/会話④~⑥
7~9	発音 7~9	声調の学習/会話⑦~⑩
10~12	前期のまとめ(プリント)	前期のポイント
13~14	中国の文化/中検	ビデオの鑑賞/中検準4級対策
15	前期の復習	テスト勉強
16~18	第1課~第3課	自己紹介(名前・家族・学校)
19~21	第4課~第6課	趣味/誕生日/私の一日
22~24	第7課~第9課	買い物/交通手段/3つの能願動詞
25~27	第10課~第12課	比較文/使役文/二重目的語文
28~29	第12課/後期のまとめ	第12課の復習/後期の復習
30	後期の復習	テスト勉強
定期試験	前期テストと後期テスト	

V 使用テキスト・教材等

『ティンダンドンマ?』 劉穎・陳浩・梁月軍 著 白帝社出版

VI 参考書・参考資料

参考文献等は授業の際に紹介します。

VII 成績評価の方法及び基準

成績評価方法	試験	小テスト・レポート	成果発表・作品	出席状況・授業態度	その他()
学習項目 配点比率(%) 合計 100	50	50			
会話の暗記・毎回の課題		○			
発音と基本文型(テキスト内容)	○				

VIII 授業時間外の学習(予習・復習等)

毎回の授業内容をしっかりと復習する必要があります。復習の内容は音読、日常会話の暗記とヒヤリングが中心になっています。

IX その他(履修上の注意、前提条件等)

授業中の私語、懈怠は、成績の漸減を生じるので注意することが必要です。真剣に勉強したい学生が大歓迎です。